344
307

鉦鼓録

ほたしさわ・えんぎ

始

特232
333

鏗爾錄

ほたるざわ・らんせん

344-307

この「鏗爾錄」は、予がかつて、日刊新聞「天業民報」――今の日刊新聞「大日本」の前身――に執筆した「社會日評」の一部を輯錄したものである。

「社會日評」は、大正十二年の十一月からはじまつて、大正十五年十一月頃までつゞいた、日評といふ性質上、毎號かゝさずに書かなければならないわけであつたが、いろ〳〵都合があつて、大正十四年以後は、執筆しない日がかなりあつた。

自分は勿論文章の專門家ではないから、どんな文章も、得手ではないが、別して短評といふようなものは書いた事がないので、はじめのうちはどうもうまくゆかなかつたが、やつてゐるうちに自分でもだん〳〵おもしろくなつてきた、しかし短評といふものは實にむづかしいもので、おもしろいとおもひながらも、そのむづかしさの、一通りや二通りのものでないことが、書いてゐるうちにだん〳〵分つて來た。

大ていな新聞には短評があつて、それが相當のよみ物にはなつてゐるが、いひあはしたようにみなまづい、短評は、文の旨意といふよりは表現が大事なのだが、短ければ二行か三行、長くても十行以内といふと、この表現が仲々むづかしい、そこで、新聞は多いが短評に氣がきいたものがなく、たゞその當時「東京朝日」の「今日の問題」だけが斬然として光つてゐた、今は大分光りがにぶくなつた樣だが、それでもたしかに新聞界の一異彩ではある。

そんなわけで、むづかしいものだとおもふと餘計興味がわいて、後にはかなり得意になつて筆をとつた、あいに

くこの「經爾錄」ははじめの方なので、得意な筆とはいへないが、予が文章におけるこれは一種の紀念塔なので、つまらないといつて捨てる氣にはなれなかつた、それにはじめの計畫では、文章としておもしろいものだけをあつめようとおもつたのだが、訂正しながら讀んでゐるうちに、日評といふことは、一面社會日誌あるひは政治日誌といふ樣な意味にもなるので、讀んで格別の興味をひかないものも其儘輯錄した、その意味で「經爾錄」をよみなをしてみると、仲々おもしろい点がある、ことに、關東大震災後の國家の情勢や社會の情勢について考へると、今、非常時といひながら一向非常時らしい覺悟がないように、當時の日本が、更生的意氣における復興といふことをうたにうたひながら、一向復興的な氣分をほんとにはもつてゐなかつたことなどおもひあはせて、感慨とゞめあえぬものがある。

「社會日評」は、當時の「天業民報」の讀者には相當喜ばれた讀物のやうである、同時に、多少の批難?めいた批評もあつた、それは、日評の文字が、餘りに皮肉で、あまりに辛辣だといふのである、その爲に、讀んだものが感情を害するといふのであらうが、しかし、餘りにも下らない事をいゝ氣になつてゐるような相手には、骨をさす樣な皮肉でなければ、つりあひがとれないし、先方も感じもしまい、怒るならおこるがいゝのだ、中にはまたナル程と氣のつくものもあるかもしれない、かつまた「社會日評」は、「天業民報」の一つの欄なのだから、その欄にはその欄としての特色がなければならぬ、おとなしい議論や正しい主張や堂々たる論說や理義明白な講話はほかに澤山ある、一つ位辛辣肉をゑぐる樣なものがあつてもいゝ、そうおもつたからなんといはれても少しも筆致はかへなかつた、だから日評の大体は、皮肉と諧謔とでみたされてゐて、或る時はそれがするどく、ある時はまた滑稽に執筆されてゐた。

好意ある讀者からはまたいろ〳〵な聲援をうけた、その中で、日評を評して「川柳」だといつた人があつた、これはまことによく日評をみてくれた人だとおもつた、また、日評の文章、主としてその皮肉な点について「正直正太夫以上だ」といふ評を傳聞ながらきいた時は、その、評をした人が人だけに、これは嬉しくもありがたくも承つた、日評において多少の自負はありながら、明治時代における最も特色ある文豪齋藤綠雨一名正直正太夫の文章の妙にはなか〳〵及ぶべくもないと正直に考へるだけに、この評はうれしかつた、同時に、ともかくもそう認められた文章が、讀むたびにその不十分な表現にはづかしい思ひをさせ、今度まとめて本にするについても、その訂正に氣をくさらせるといふことについて、つく〴〵文章、特にかゝる短文のむづかしさなしみ〴〵感じた、文章に興味を感ずる人は、この苦心と、文字を驅使することの困難を、やはり予のおもふほどに感じてくれるだらう。

とはいへこの「經爾錄」は、たゞ皮肉と諧謔とにのみ存在の價値をみとめようといふのではない、事象のあつかひ方、事件の處理、呼吸のつかまへどころ、討論の要領、といふような事について、後進の爲めに多少の指導をも與へうることゝおもふ、それは人生における非常に必要なことであるが、敎へて仲々さとりえられる事でない、すなはち事實において示すことが一番いゝ、しかもそれは短評であることにおいて頗る効果的である、刹那

に、瞬間に、たゞしくその事象をつかむといふことは、僅な文字の間に却つて示しやすいからである、この事を特に青年の爲につげて、事業としての文章、文章としての事業の要領を敎へる。

さて、「社會日評」の一部分が、こゝに「鏗爾錄」といふ一冊の本になつた、うれしい事である。

昭和七年九月五日

らんせん莊の一室に風の音をきゝつゝ

ほ・たるざわ・らんせん

鏗爾錄

ほたるざわ・らんせん

子路・曾晳・冉有・公西華侍坐。子曰、以吾一日長乎爾、毋吾以也。居則曰、不吾知也。如或知爾、則何以哉。子路率爾而對曰、千乘之國、攝乎大國之間、加之以師旅、因之以饑饉、由也爲之、比及三年、可使有勇且知方也。夫子哂之。求爾何如。對曰、方六七十、如五六十、求也爲之、比及三年、可使足民、如其禮樂以俟君子。赤爾何如。對曰、非曰能之、願學焉。宗廟之事、如會同、端章甫、願爲小相焉。點爾何如。鼓瑟希。鏗爾舍瑟而作。對曰、異乎三子者之撰。子曰、何傷乎。亦各言其志也。曰、莫春者、春服旣成。冠者五六人、童子六七人、浴乎沂、風乎舞雩、詠而歸。夫子喟然歎曰、吾與點也。

（「論語」先進篇）

×

大選擧區にするか小選擧區にするか、選擧法改正に關する主査委員會で、學者と政黨員が意見をたゝかはした、學者の論議はわりに公平だが、政黨員は、みな自分たちの黨派に都合のいゝやうな意見をならべた、地シンで覺醒したと、お互にいひ合つた後ではあるけれども、この調子では、政黨員が覺醒しないことだけは確だ。

×

警部が、妾に毛布を賣らした、と新聞がかいた、そうして御苦勞にも、その妾のうち、それから本宅、警部の上役、といふ順に訪問して書いた記事が百七十行。

警世の爲よりは興味として書いたこの百七十行、或はまた官憲に對する反感としてのこの百七十行、大しん大火の後、バラックさへまだロクに立ちそろはない當今の時節、新聞といふものは、隨分ムダな事に骨を折つてゐるやうである、たゞし、警部のわるさはいふまでもない、地震で覺醒した筈の社會で、政黨員とおなじように役人も覺醒してゐない、役人とおなじやうに、社會も覺醒してゐない。

×

ある新聞に、「自分に都合のよいことは新聞紙に書きたらぬやうにふれまはり、これと反對に爪の垢ほどでも自分の都合の惡いことが出れば口をとがらすのは、何も今度の內閣に始まつたわけではないが」とあるが、これで見ると、內閣といふものと、新聞といふものとは、おかしいほど似てゐる。

×

生活改善同志會は、いろ〳〵有益な意見を澤山もつてゐるが、中にも、「第一婦人が猿股一つはかないのは間違ひだ」と、大へん猿股に力をいれた、猿股さへはいてゐれば貞操はたもたれるといふのだらう、貴重な婦人の貞操が、安價な猿股一つでたもたれるといふことは、物資に乏しいシンサイ後の生活に就て、尤も聰明な考へとでもおもつたのだらう。

×

政友會では、三長老だとか五長老だとかいつて、長老が三人になつたり五人になつたり、いろ〳〵になつてゴツタ返してゐる、今さら一原敬がおもはれる、も情ない話ではあるが、政友會には一たい政黨としての大した特色がない、あればまア黨の結束ぐらゐなものだが、その結束がゆるんだ以上、政友會としては出直すが上策である、改革派、非改革派、どうせ意見も感情も合はないのだから、合はないものは離れるよりほかにみちはあるまい。

×

どうもやることが徹底しない、どこをみても「斷」の一字がかけてゐる、斷乎としていつたら、それがあとからくづれないようでありたい、ゾロ〳〵と下手人が出るやうでは困る、衛戍勤務令で銃殺したといふなら、ヘシがくしにかくさずにドシ〳〵公表

してもらひたい、そうしてさへおけば、苦情をつけられても處分が樂だ、斷乎としてやるさ、猛然としてやるさ、申譯や逃口上はよそう、大地シン裂といふ、自然の大々的癇癪を、たくみに人間の心にとりいれてはどうだ。（十一月九日）

×

東京日々の奉天特電によると、滿洲における土地商租の協定が完全でないために、邦人が迷惑してゐるといふことだ、ところが、それは單に土地商租の問題だけでなく奉天城内などでは、邦人の賃借家屋なども、なんぞといふとドン／＼追ひたてられ、契約の繼續などは到底みこみがないといふことを、私共土地の人からよくきく。

日本官憲の口吻をまねれば、「日支親善」で、滿鐵風にいへば「日支共存共榮」だが、しかし、日本人が家屋を追ひたてられて支那人だけ萬歳は、榮は榮でも共榮ではなさそうだ、では、何が共存で何が共榮だといふと、參考資料がすくないので何ともいひかねるが、つまり、滿鐵社長と張作霖とが一しよに御飯をたべることであるらしい、双方滿腹で共存共榮、ナル程これは理窟だ。

×

有罪の宣告をうけて勳章をとりあげられた男が、その宣告を承服せずに大審院までもちだして、とう／＼無罪になつた、同時に、勳章を返すかかへさないかが問題になり、しかも、非常にむづかしい問題になつたそうだが、結局、過ちは改むべしといふわけで、勳章をまたわたしたといふことである、政治や裁判だとて、間違ひはないとはいへない、ばかりか、かなりよく間違ふようだ、まちがつたら、なをすのが一番いゝことである。

かつて、本紙（天業民報のこと）の前身「國柱新聞」が、内務省の手であやまつて發賣禁止を命ぜられたことがあつた、内務省の處置はたしかに間違ひだつた、吾々はその間違ひを指摘して政府の反省をもとめたのであつたが、内務省は省令を撤回することはできないと頑張つて、とう／＼其れをとほしてしまつた、省令を神様の御託宣かなんぞと思つてゐるのかもしれないが、それはいけない事だ、たゞの人間ならともかく、政府が間違つてはいけない、政府だから、間違つても直さないは、なをいけない、しかし、政府も、やがてはその間違ひを訂正するやうなことになるだらう、そうして、その終局に、間違ひをやらない政府ができることになるだらう。

我々の政治運動には、その間違ひをやらない政府といふことが、やはり大きな希望の一となつてゐる。

×

シン災で殺された支那人について、支那から、政府を代表した抗議委員がくるさうである、長江沿岸警備の日本軍艦に、毎日ボンボン鐵砲玉をあびせかけて、時々怪我人さへもだすといふ、亂暴な兵隊をもつてゐる國の代表等が、どんな顏をして抗議しにくるか觀物(みもの)だ。

×

金持が貧乏人のまねをして、六十日もバラックにすんでゐた、そうして、米でも味噌でもきものでも、みんなたゞで貰つてゐた。

大きな金持達はビックリして、地震は神樣のお示しだとかなんとかいつたが、いゝかげんな金持の中には、地震でつぶれた埋め合はせを、バラックでしようとおもつたものもあるとみへる。

×

十億の復興費は、禁酒すれば一年で、と、禁酒同盟會の理事の託宣である、名案だそこで一年間禁酒といふ事にしてみよう、(此間一年經過)一年たつと、果して理事の仰せ通り、十億の金が山とつまれた、そうして氣がついて酒屋を見ると、可哀そうに

日本中の酒屋が、みんなひぼしだ。

×

庭園協會から、帝都復興について、公園と公園聯絡の廣いみちをつくる必要があるといふ計畫案を復興院へ提出するさうである、これはいゝことであるが、それが有事の時に利用されるといふことをのみ骨子としたものではないことを希望しておく、隨つて、公園としての相貌、形狀、種類について徹底した研究を希望したい、現在の小公園や日比谷公園のようなものがやたらにできては困る。(十一月十日)

×

山の手線の電車が此頃たいへん混雜する、その理由を研究した人がある、研究の結果、これは鐵道當局の無能なための混雜でなく、物理的な原因がおもなものだといふことがわかつた。そこでその人のいふことには、「當局の苦衷に同情するばかりでなくやゝともすれば皮相のことばかりをみて、すぐ當局非難と出る輕佻な國民性を痛感したので」とある。

混雜で、さん〳〵迷惑してゐる人達も、かうきかされてみると、鐵道當局をせめてばかりもゐられなくなる、ばかりか、却て同情しなければならないことになる、そこ

で希望することは、そういふ尤な理由などは、何等かの方法ではやく公示してもらひたいことである、公示されなければ、なぜこんなに混雑するかといふことは一般公衆にはわからぬ、わからなければ、文句をいふ、文句をいへば騒々しくなる、それではお互に不利益だ、しかし、そのお互の不利益は、お互の意思の疏通によつて一掃されることだとおもふ、その疏通は、お互の立場を明かにすることである。

×

政友會は、役員の數をましたし、それで不平側は納得するらしいとの事だ、はやく増員すればゴタゴタも起らなかつたらうに、しかし、某氏が脱黨する位だから、つまり圓滿な解決ではない、だから云々ともいふことである、それはまたいくら増員しても結局だめだといふ事になるだらう。

國家有事の際、この大政黨は國家民生に對して何の貢献もしてゐない、指導もなければ經綸もない、あるものは黨爭、さもなければ内訌、なげかはしい事である。

×

復興院が、豫算百五十萬圓を請求したところが、大藏當局はそれを五十萬圓に削減したといふ説がある、もしほんとだとすると復興院は器量がわるいことである、何に

せよ、風袋ばかり大きくつて、仕事の方はすこしもはかどらない復興院、これでは、帝都の復興よりも、まづ復興院に眼鼻をつける方が急務ではないか。

×

東京では子供の追ひ剝ぎができた、大震災の警示におどろいて、人心があらたまるだらうとおもふとちがふ、人間の不良現象は、シンサイ前よりもひどい、唱道されてゐる帝都復興なるものは、たゞ建築や道路や下水や公園だけのはなしで、人間の心になんの影響をももつてゐない。

こんな復興は、ほんとうの復興ではない。

×

都新聞の「讀者と記者」欄に、貯金局がシン火災に重要書類を燒いてしまつたについて「貯金局の責任」をせめて天下に謝罪せよといひ「世人に對し官營事業の如何ばかり頼みなきかを暴露したるものといふべし」といつた人がある、我々もそれで頗る困つてゐるものゝ仲間の、しかも最たるものである、どうかどんなことがあつても、今後、重要書類だけは燒かないやうにしてもらいたいものだ。

報知新聞の投書欄に「軍隊の部署」について、海軍などでは、入隊のはじめに、防火

防水、溺者救助等すべての部署を規定されて、それは大へん重いことになつてゐるがそれが有時の際に規律ある行動となる、だから、諸官省會社などでも、平生から部署をきめておいて、重要書類などをもちだすやうにしたらよからうといつた人がある、尤な事だ。

これは災後たれしも考へたことらしい、復興の先達である政府は、傾聽すべきことである。（十一月十一日）

×

ある意味において支那は無限である、しようと思へばどんなことでもできる、一人五千元づゝやれば、參議員の議員を買收することもできる。

無限はゆきどまりがないのだから、途中でひつかゝる心配もなく、苦情があれば苦情のまゝで押し流してゆくことができる、官吏に月給をやらない、官吏は、もらはなければ困るとこぼしながら、やはり出勤する、それも無限である。

無限はある意味において頗る自由である、軍隊が日本人を捕虜にして、日本政府の抗議をうけ、臨城事件で外交團の一齊抗議をうけながらも、東京のシン災にあたつて支那人が殺されたといへば、凉しさうな顔をして抗議を申しこみにくる。

無限は興味である、陳が孫を逐ひ、孫が陳を逐ひ、また陳が孫を逐ふ、支那においては、悲劇は即喜劇であり、喜劇は即悲劇である、最近の報告によれば、孫文は逃げ支度をしてゐるそうである、逃げ支度をしてゐるところまで報道されゝば世話はないどんな恰好をして、逃げ支度をしてゐるだらうとおもうと、それが支那人だけに、考へるだけでもおかしい。

一方吳佩孚は南をはからんとしてゐる、吳は陳烱明を利用して孫文を逐ひ、陳烱明が役にたつてしまつたら、こんどは陳を逐つばらつてしまはふと、虫のいゝことを考へてゐる。

×

政府が、頻々として新聞に發賣禁止を命ずる、それがけしからぬと、ある新聞がいふ、おそらくすべての新聞がいふ。

政府の禁止内容が、果してすべて結構なものであるかどうかは甚だうたがはしい、だから、新聞のいふところに一理ないでもない、たゞ私共の希望では、政府もボンヤリしてゐるところで、ずゐぶん禁止しなければならないことが澤山あるやうだ。

それを政府は度外してゐる。

新聞紙取締の方法は、この政府無關心の方面にことに必要だ。

×

暴利取締令といふものが、どういふところにきいてゐるかわからないが、總じて物價はずゐぶん高くなつてゐる、政府當局の復興が理想的方面にばかりそゝがれて、めの前の人間等は何をしてゐるかといふと　生活上の問題でのみ不安を感じてゐる。

復興の理想も結構だが、それは、現實の復興であることから、まづ考へてもらひたい。

×

保險金問題で、田農相が保險金請求團體から彈劾された、どつちに理窟があるか一がいにはいへない、が、何にせよ、その問題で二ヶ月以上をスッタモンダで、その結果が、被保險者をこんなにまで激昂せしめたといふことは、まづいやりかただ。

またしても復興だが、どの方面から見ても、政府の復興といふものは實際徹底してゐない。

×

學長をなぐつた東洋大學の學生が起訴された、どんな理由でも、學生が、その學長

をなぐつたといふことは風教上の大問題である、これに對しての徹底した判決をきゝたい。（十一月十二日）

×

せいたくなきものはやめて銘仙にしろとか、きぬ物はやめて木綿物にしろとか、いふことはいふけれども、おもてをあるいてみれば、大ていな女は、シン災前よりもむしろきかざつて歩いてゐる。

焦土の東京と、灰燼の東京になみだをながし、バラックの東京にさびしさを味はひすぎた人間は、花やかさがほしいのである、シン災のすぐあとで、化粧品がとぶようにうれたなぞは、そのいちじるしい例である。

たゞ節約を強いてもだめだ、また節約そのものが、人間をみじめにさせるものであつたら、それこそ人間にとつて、何のたしにもならない節約だ。

何も、せいたくをするには及ばない、が、せいたくでない程度の花やかさと花々しさは、人間になくてはならぬものだ、同時にまた、どうしても人間からとることのできないものだ。

×

新聞の投書には、なか〳〵おもしろいのがある、東京朝日の「巷の聲」に

人格者として賀川氏をお慕ひしてゐましたが、近頃すつかりイヤになりました、早大校庭の御講演中に「今回の震災が天罰であるとしたら、何故天は大倉喜八郎輩を殺さないで本所深川の多數の勞働者を殺したか」と云はれました、そんな言ひかたまでして勞働者の御機嫌をとらなくてもいゝではありませんか、（傍聽の一婦人）

といふのがあつた、誠意のないものは、いつかしつぽを出す。

×

新聞であつかはれてゐる事件といふものは大ていかぎられてゐる、此頃では「帝都復興問題」「ドイツの賠償問題」「臨時議會對政黨」「非政友合同」「火災保險」「全日本選手權陸上大會」「ハイフエッツ」ほゞこの範圍をでない、そんなことをおつくりかへしひつくりかへしやつてゐる、もつと重要なことが世間におこなはれてゐるのに、それについては一行一字の記載もない。

現在のやうな世の中に、人間の復興と國家の復興とに全生命をなげうつて、一大結束をしてゐる我等のあるといふことは、驚くべき事實であるのに、天下の耳目とかなんとかいつてゐる新聞が、なんにも知らずにゐる。

×

煙草が飢饉だ、このごろになつて漸く滿洲あたりからとるとかとらないとかいつてゐる、のんきな話だ。

煙草は、米や味噌とはちがふけれども、時としては米以上に必要な場合がある、米がないのはひもじさだが、煙草のないのはさびしさだ。

この際だ、せめて煙草の配給ぐらいは、みごとにやつてもらひたい。

×

學生の通學券の苦情がなんかの新聞にでてゐた、通學券について市電當局が、不都合だとかいふのだ、その苦情は尤もなことかもしれないが、通學かならずしも電車でなければならないといふわけではなからう、すこし歩くことを奬勵したい。

會社員もそうだが、學生などはことにそうだ、一里や一里半のみちは四十分か一時間であるける、大した時間はかゝらない、おまけに運動としてこの上なしだ、そうして、一にも乘り物、二にも乘り物といふ、儒弱なこゝろもちをわかい者の心からとりたい。（十一月十四日）

×

山田耕作氏が、かういふことをいつてゐる。

多くの場合、天變地異のおこる前には、えて不健全な歌謠の流行をみるものである。凶兆の種子が音樂の中に芽生えて、そうした鄙俗な歌を生むのかもしれない、或は逆に、俗惡な人の心が音樂の苗床に植えつけられ、やがて、その惡の樹より發散する氣が、我々人類と有機的關係をもつてゐる自然界に感應し、その毒氣に充たされた自然は、終に餘儀なくその害毒を發散するために、鳴動し、破裂するやうになるのかもわからない。

私は過去數年の間に此國に流行した歌曲を顧りみて、ある怖ろしさを感ずるものである。頽廢の節（リズム）そのものであるともいひ得る濵花節。放濵の民の歌調に墮してゐる鴨綠江節。カチユシヤの歌。枯すゝきの歌。これらの歌曲の流行は私共をいづくに到達せしめたであらうか。私共は果してこれらの歌謠の流行によつて眞の幸福を與へられたらうか。

これはかなりに聰明なかんがへである。そうして、私共のいつもいつてゐることの一部に觸れてゐる處がある。

×

政友會は、どうして政府にぶつかり、何で、政府を攻めようかと苦心してゐる、一貫した理想のあるなしはともかくとして、誠意ある主張がありさいすれば、何も今さらマゴツイたり、うろたへたりする必要はない。

普選で衝突しては、國民の指彈をうけるからと、普選上程前、ほかの問題で、衝突

しやうと希望してゐるとは、政黨のみあつて政治のない政黨者の窮情あはれむべきものがある。

×

ドイツの前皇太子はつひに故國へかへつた、彼れが故國へかへる日の心持と、ドイツ國民がかれをむかへた心持とは、どんなものだつたか、興味ある問題だとおもふ。

ドイツの國情をくわしく知らない我々にはなんともいひかねるが、ドイツ人がもとのカイゼルの一族に對する考へは、支那人がもとの清室に對するのとは、ちがふものがあるかも知れない。

×

東京を燒けだされた藝人等は大てい大阪へにげた、こゝしばらく大阪は、長唄やおどりでむせつかへることになる。

東京にふみとゞまつて、江戸特有の藝術に、つかれた東京人をなぐさめようといふものはないか、さもしい人心をおもはせる。

×

年賀狀を全廢するとかしないとか、つまらないことを、まつたくつまらないことを

しかも、しかつめらしくヤキモキいつてゐる人間がある。
こんな世の中だ、復興もグズ〳〵グズ〳〵と手間どるわけだ、さうしてこんな事がさも〳〵復興氣分らしく考へられてゐる。

×

町中に、「竹内みい子の墓」といふのを發見して驚いた、もしや罹災民が埋葬に困つて……と、警官立會で土饅頭を發掘してみると、墓のぬしは一匹の小猫、それは竹内某の愛猫としれて、一同苦笑とある。
家畜に、人間とおなじ名をつけるさへ感心しないのに、「竹内みい子」はなんぼなんでもあまりひどい、あまりに人間をばかにしてゐる。
些細なことではあるが、今の人間といふものが、何から何までだらしのない生活をしてゐることが、この一事でもわかる。
分つたようなつもりでいゝ氣になつてゐるが、まつたく、なんにもわかつてはゐないのだ。(十一月十五日)

×

突如として吳佩孚が、直魯豫巡閲使に任命された、曹錕が大總統に就任ののち、だ

れが直魯豫巡閲使になるかは、たいへん興味ある問題であつたが、とう〳〵吳佩孚が任命された、これは直隷派の結束に、かなりなつよ味をあたへ、確實性をあたへる問題であるかも知れない。
せんたい、曹錕が大總統になつたことについては、吳佩孚よりは、直隷省長王承斌の方が功がある、しせん、大總統就任後の論功行賞としては、直魯豫巡閲使は王承斌かもしれないといふように想像されたわけだつたが、一方それでは吳佩孚がおさまるまいといふ想像もあつて、こんどとう〳〵吳佩孚がおさまることになつたとみへる、これで、直隷派としては、こゝしばらく秩序的行動がみられるものとみてさしつかへあるまい。
勿論こゝしばらくだ、吳佩孚の羽翼がなるの日は、吳は曹をはなれて、張作霖が、吳と、しんけんに戰はなければならないようなことになるだらう、支那は無限にあらそう國である。

×

歐洲大戰の休戰紀念日に、ウヰルソンは米國民につげて、
米國戰後の態度はきはめて卑劣であり、怯懦であり、破廉恥である、佛伊兩國はヴエルサイユ條約を反

古とした、米國が休戰紀念日の意義を眞實に認識することを示すの要は、利己主義を全然放擲し國際政局の最高理想を定め行ふことである。

と、米國戰後の態度はウ氏のいふごとく、まつたく卑劣で怯懦で破廉耻であるに相違ない、そうして、ウヰルソンの講和會議における態度は、また余りに向ふみずで、突拍子もないもので、お調子にのつたものであつたことを考へずにはゐられまい。

×

汽車や電車の混雜に乘じ、不正な定期乘車券をつかふものがおほくなつたそうだ、災後、ゴタ〳〵にまぎれてわるい人間がふえる。

交通といふことは、今の世界、すなはち我々の生活上に、一番大切なことである、これに對する犯罪については、嚴重な處罰を加へたい、すくなくともそれが、非常にわるいものだといふことをしらせるべく。

×

地方長官會議でしめされた現内閣の政綱について、實行如何が問題だといふ批評がある。

いつの内閣でも、その政綱としては、大してわるいことはいつてゐない、皆いづれもよさそうな、もつともらしそうな言葉をならべてゐるのだ。

だから、その通りやりさへすれば、いつの内閣も善政を謳歌されるわけなのだが、とかくは實行難とみへる、實行如何が問題だ、といふ批評は、つかまへどころのない批評ではあるが、それが圖星であるところに、いつの内閣の政綱も、一向たぎつたところをみせないように、今度の内閣の政綱もあひかわらずだ。

人心更新の大詔を拜するほどの時勢である、もつと剴切な、力のある政綱宣言をきゝたい。

×

急にさむいかとおもふと、またいやにあたゝかな日が續く、内地ばかりでなく滿洲あたりでも、やはり氣候が變調を來してゐる、變調を呈してゐる世界には、氣候も變調を呈する、人間の心もやはり變調を呈する。（十一月十六日）

×

地方長官會議での、首相と内相との訓示を見ると、いづれももつともなことをいひけつして間違つたことはいつてゐないのであるが、どうもあんまりわかりすぎてゐる事がらを、つとめてまた平凡にいひあらはしてゐるわけだから、どう考へながらよん

でみても、切實、剴切といふような感じはすこしもでてこない。

それから、いふことがあまりに抽象的なせいか、結局つかまへどころのないものになつてしまふ點もなか〳〵ある、內相のを一例としてあげれば、

物質文明がすゝんでも、精神修養はかへつて閑却せられてきたことなどは、共に思想動搖の一因として深く省察を加ふべきであるとおもひます、精神修養を盛んならしめることにつきましては、もとより國民の自覺を喚起し、各自の內面よりこれに向ふやうに促進の方途を講ぜなければならぬ。

とあるが、これは、結局どうすればいゝのだかは、內相自身にもよくわかるまいとおもふほど、漠然としたいひかたである。

精神修養といふことが、なんのことだかは、これでは分らない、もしそれ「精神修養を盛んにするにはもとより國民の自覺を喚起し、各自の內面よりこれに向ふ」といふにいたつては、なにがなんだかまるでわからないではないか。

もとよりといふのは何がもとよりで、各自の內面とは何の內面で、各自といふのがどういふ各自で、これに向ふといふのはぜんたい、どれにむかふのだか、

もつともこれは、この一節のずッと前にある、「わが光輝ある歷史の成跡を溫ね、國民精神の由つて來るところを明らかにし、確乎たる國民的信念を涵養せしむるやうにつとむるのは、最も緊要な事であると信じます」といふ點に歸納するつもりでいつたのかも知れないが、もしそうだとするとそれはあべこべで、不得要領な精神修養などから、國民的信念の發生涵養されるといふことはまづまづおぼつかないのである。

聰明な後藤內相は、現代においてはもつとも進んだ政治家である筈だ、すでに、「我が光輝ある歷史」といひ、「國民精神の由つて來るところ」といひ「國民的信念を涵養する」といふほどならば、なぜもう一歩すゝめて「日本建國の元由」「天業民族の目的と使命」といふ日本國家の根本的方面に、あらゆることの基礎をおいて、日本國家の經營の全體が、そこからはじめられなければならないといはないのだらうか。

政治家といふものは、不思議にたゞ現在の狀態だけにあたまをなやましてゐる、いきほひ、現在の國家に存在してゐるものゝほとんどすべてに均等でなければならないことになる。

もし政治家が、過去と未來とが汝の現在にむすばれて、それで過去がいきそれで未來が規定されるのだと考へたなら、人類のため、社會のため、國家のために、大した顧慮なく事件を處置してゆくことができる筈だ。

いつの大臣の訓示も、いつの大臣の施政方針も、みな、判コでおした樣におなじ事

を、おなじ調子でいつてゐる、人心があらたになることなどはとてものぞめない、人心をあらたにしようとなら、大臣先づ新たにならなければなるまい、日本をほんとにあらたにしたいとなら、まづ日本といふものをほんとに知らなければならない。

（十一月十七日）

×

島田沼南が死んだ。

この老政客は、その政治的生涯で、たゞの一度も良心に耻ることをした覺えがないそうである、新聞記者はこれに附隨していふ、この一語で生涯の幕をとぢうる政治家は、沼南翁のほか幾名あらう、と。

これによると、現代の政治家のおほくは、大ていみな良心に耻る人であるらしい、この際、良心に耻ることを一度もしたことのない沼南を失つたのは、惜しいことである、たゞしかし良心良心といつたところが、其良心の價値がはたしてどんなものだかが問題だが。

×

大臣の訓示といふものをみると、いつの訓示にも、キット「近時社會の綱紀漸く弛

緩し」とある、社會の綱紀など隨分以前から弛緩してるわけなのだが、大臣にいはせるといつも「近時漸く弛緩」だ、そうして、いつの大臣でもそういつてばかりゐるのをみると、いつの大臣も「近時……漸く」とだけはいつてみたけれどもそのあとどうにもならなかつた、ものとみへる。

×

「戒嚴令の撤廢に際し、兵士への感謝と將校への苦言」と、新聞にある、苦言も結構だが、しかし、將校へも、一度まづ感謝してから、呈するなら苦言を呈してみたらどうだ。

×

「わが陸軍には陸軍固有の臭みがあると」新聞がいふ、臭み〳〵、そのとほりだ、なんにでもある臭みだ、その臭みがほんとにこまるのだ、中でも一番鼻つまみが、新聞固有の臭みだ。

×

勞農政府では、オーケストラがコンダクターの指揮に從ふのは共和主義に反するからといふので、コンダクターをよさせたそうだ、勞農ロシアとしては、これも一つの

方法かもしれない、が、レーニンやトロツキー等が、勞農ロシヤの指揮權をなげうつてからだと一層有効だらうに。

×

あるところで、文士といふものが十人ばかりあつまつて、シンサイの話をした、その中の一人が、こんどのシンサイを天譴と感じただけで、ほかのものは概して天譴でないといふ議論だ。

今のいはゆる文藝といふものは、文士の生活範圍をでない、下宿屋、家庭、妻、情婦、それからパンの問題、まづそんなものだ、その範圍でなら、天譴もヘチマもあつたものではない、文士々々、天下泰平。

×

帝都復興評議員會の初會で、後藤総裁が挨拶をした、その挨拶文をみると、總裁は評議員にむかつて徹頭徹尾お詫びを申し上げてゐる。

いはく、帝都復興は急を要する仕事なのに、調査に日を費して何共相すまぬ

いはく、その調査はいろ〳〵な部面にわたるので、進行意の如く參らぬは、當局自ら遺憾といたします

いはく、各位の御任命後、今日まで遷延、當局自ら罪をまぬがれないと恐縮致して居る次第

ところで當日、総裁は、挨拶の草案があるのにそれをみないで、勝手に大風呂敷をひろげたんだといふことだ、だがお詫びがまさか大風呂敷とは思へない、すると大風呂敷はべつにある譯だが、さてこうなつてみると、大風呂敷は総裁のまけおしみで、おわびの方が復興院幹部一統の意見とみへる、

勿論幹部一統の意見の方がたゞしい。（十一月十八日）

×

戒嚴撤廢について、東京朝日は陸海軍の効績をしるした、新聞がかりにも陸海軍などをほめようわけはない、いつもには似ずめづらしいことだとおもつてゐると、但し書きではないが、「しかしながら吾人の遺憾とするところは」といふ、そろ〳〵きまり文句がでる。

で、まづ記された効績といふものを調べると、なか〳〵大した効績で、かう書き上げられないうちから、そのおびたゞしい業績は周知のことではあつたが、書きあげられてみると、また、今更のようにその効績の偉大なのに感じ、さすがに陸海軍の規模

の大と、秩序の整備とによらなければできないことだと感心した、だから、朝日が効績を錄すのは尤もなことである。

ところでその、「しかしながら吾人の遺憾とするところは」といふのがなんだといふと「甘粕事件云々」そうして「および江東方面の秩序紊亂を最少限度に阻止しえないで多數の死傷者をだしたの」がだとある、そこで効績の大なるには似ず、遺憾とすることの何ぞそれ小なるやといふことになるのである。

ものはみようだ、革命歌をうたつて不穩な形勢をしめした七百幾人をみんな殺さずに、その中の十幾人だけを殺したといふことが、いはゆる江東事件なるものゝ最少限度だとおもつてゐたのに、東朝はまだそれ以下の最少限度をもとめてゐる。

おまけに、警察と軍隊との制止をきかなかつたといふ人間どもに對しては少しも遺憾を感せずに、東朝みづからも十分みとめて書きあげたところのおびたゞしい効績ある陸海軍に對して、一甘粕事件、一江東事件が、頗る遺憾であるとした、

新聞のこの態度の方が、むしろどれだけ遺憾だか知れない。

×

東朝またいふ。

新聞紙と陸軍と始めより恩怨なし、謝すべきは謹んで謝するが、無やみに人でも殺せば、默つては居られない筈だ。

と、「新聞紙と陸軍と始めより恩怨なし」ときいて安心した、いまさら「始めより恩怨なし」とことはるのも何だかクスグッたいようないひ方ではあるが、しかし、ときいて安心した、實はかうきくまでは、陸軍に對して新聞紙は、大に、恩の方はわからないけれども、怨の方はなんだかありそうにおもへたところが、ところがそうでないそうだ、もとよりこれはそうあるべきこと、それにしては從來の新聞記事の陸軍の効績を錄することははなはだすくなく、衞戍勤務令とことはつてあるのにさへ、彼れこれいひぐさのあるのは、吾人たるもの、新聞紙のために遺憾とせざるをえない。

×

甘粕事件で、各被告がたがひに、いつたいはぬとあらそつてゐる、そのことに對しておほくをいふまい、たゞ、そのすべてにみなぎる不徹底さを遺憾におもふ。

甘粕君の、國を憂ふるの心持を徹底させたら、甘粕君としてこんなまづい結果にはならなかつたらう、甘粕君の意志が、森曹長以下に徹底したら、大尉と部下との供述がちがふようなまづい結果にはならなかつたらう。

社會は徹底さを缺いてゐる、國家も徹底さを缺いてゐる。
國法の不備において、國民たる我等寒心せざるをえない。（十一月二十日）

×

山本首相は、政友憲政の兩黨首と懇談して臨時議會に擧國一致の實をしめさうと、努力するといふことだ、擧國一致も結構はけつこうだが、復興院のノロマサ加減まで擧國一致にモリ込まれては、國民たるもの、擧國一致たるもの、たまつたものではない。

擧國一致ともあれば、義理にももう少しテキパキしたやり方でなければなるまい。責任をまぬがれようがための、責任の片棒をかつがせようがための擧國一致よばはり、片腹痛し。

×

綾呂久（あやろく）といふ義太夫語りが、シンサイ當時、師匠のゆくへをさがすために、三日三晩、腰べん當で燒つ原をさがしまはり、漸く山の手でさがしあてゝ安心したら、こんどはまたすぐ、實父のありかをさがしにでたといふことが都新聞にでてゐた。

師を重んずるみちのすたれた現代に、さりとては奇特な心ではないか、無教育な藝

人の中にも、かういふ尊い心の持主（もちぬし）がある。きいたばかりでも心持のいゝ話だ。

×

帝都復興の豫算があんまり貧弱なので、東京の市會議員連がおこりだしたそうだ、今おこりだすといふのも少々血のめぐりのわるいわけだが、しかし、復興計畫の馬鹿〳〵しさは、市會議員たらずとも、もつて憤慨するにあまりある程度の馬鹿〳〵しさだ。

であるから、市會議員たるものこの際大に政府にくつてかゝるがいゝ、そうして、新興の帝都を建設するとしたら、復興審議會や、評議員會や、參與會や、復興院やといふような、どこをみてもヨボヨボの、中風にかゝつたような、老朽若朽ともに棚ざらしの人達の、しなびた智慧などかりずに、一千萬圓位の懸賞で日本全國に帝都復興計畫をつのつてみるがいゝのだ。

土木屋だから、建築屋だから、だから都會をこしらへることができるとおもつたらそれこそおめでたい。

土木屋のつくるのはたゞ道路や下水のこと、建築屋がこしらへるのはたて物、ところで、たゞ道路、たゞ下水、たゞ家屋が、都會の正體ではない。

新東京の復興計畫は、その大體圖は、新帝都について何事かを考へえられるほどの經世家、思想家、藝術家、等の大集團において、まづ考へられなければならないことで、政界の古つはものならぬ古弱者などがあつまつて、審議會をひらいてみたところが、たゞめさきをかへてゆきさへすればいゝ、勞働問題や普選とはちがふのだから、わかりつこはないのだ。

全國につのつて最良の案をえるがいゝ、そうしたらいくらか理想に近いものができるだらう。

我々たるもの、また案なきにあらずだ。

×

後藤内相の復興意見は、拙速を排して巧速をとるといふすばらしい考へだ。

巧速といふことばにはじめてぶつかつて面くらつた。なんだかわからない、でもこの頃になつて漸くその意味がわかつた。

巧速といふことは、つまり、道路計畫に二ヶ月半を費し、五十億とか三十億とかの大理想を、四億八千八百萬圓にすることだ。

いはばこれは入間言葉(いるまことば)だ、巧速といふことは、拙遲の反語にすぎなかつたのだ、後

藤さんも仲々人がわるい。(十一月二十一日)

×

甘粕君が、「モッと大いに貢献するつもりだつた」といふ、貢献とは何かと法務官がきく、貢献とはモット澤山殺すことですと甘粕君がいふ、新聞が此時のことを「と、鹿爪らしく述べて滿場の失笑を買ふ」と書く、おまけにそれを表題の袖書きにも大きく書く、なる程「貢献とは殺す事だ」と、もし此事件に關係のないものがいつたとしたら、それは滿廷の失笑を買ふにあたひしたことかもしれない、が、甘粕君の心としては、また主義としては、それはいのちがけの仕事だ、つまらないさげすみを加へることを我々はいやしとしたい。

×

ある政客、自分の飼犬の毛が赤いので、ヨッフエと名づけたといふことである、ヨッフエ君がきいたら、いゝ心持はしまい。

かういふ非禮はさけたいものである。

×

「井戸へ毒藥の噂は事實」と、十一月十八日の新聞にかいてある、シンサイ以後實に

二ケ月半、それまではその事實をムリにウソにしてゐたのである。自警團を誣ゐ、投毒を否定し、國民に輕躁の折紙をつけてなんの得がある。

×

後藤復興の理想案は、井上藏相の現實案にうちやぶられたのだ相だ、復興理想案はつまり空論といふことになるのだらう。

×

徳富蘇峰は、「素人繁昌の時節」をかいて、近頃痛快なでき事の一つは、「專門家の失敗だ」といつてゐる。

尤もそれは、二三の外國人のことをいひたいためではあつたらしいが、玄人の鼻が素人に折られるといふことに痛快味を感じたところは、さすがに蘇峰だ。

專門家ぶつた專門家ほど實際やつかいなものはない。

だが、蘇峰の底意が、もし自分の「日本近世史」を意味したものなら、それはあまり贊成できない。

×

リサイ者に對する配給品について、不正がおこなはれてゐることが、大分ばく露される、同時に、配給がうまくいつてゐないことも知れてくる。

もらふものは澤山もらつて、もらはないものは、少しも貰はない、配給事業に關係してゐるために、リサイ者でもないのに、米を三俵も四俵ももらつてゐる人があるといふことをもきく。

シンサイ救護について感ずることは、當局の態度方法の、この上もなく不徹底をきはめたことである。

この不徹底は何からくるだらう、それにはいろ〳〵原因があるだらうけれど、不親切だといふこともその原因の一つだらう。

その不親切は何からくる、それにはいろ〳〵な原因があるだらうけれど、正直に世をおもひ國を憂ふる人がなく、たゞ自分のしたいことをやつて、それでえらいものになり、虚名を博そうと考へてゐるからだといふことが、もつとも大きな原因の、一つだらう。

（十一月二十二日）

×

行幸啓の場合のすべての鹵簿に、馬車が廢されて自動車になるそうである、今度のシン災で、艤裝馬車がこはれたからといふわけでもあるそうだが、しかし、馬車はつ

くればできる、それをつくらないのは、自動車の方が、時勢に適合してゐるといふような考へからでたのが、鹵簿變更の最大原因ではなからうか。

ロボが自動車であつていゝ場合も澤山ある、また自動車でなければならないといふ場合もあるかもしれない、しかし、御慶事などにさへ自動車をお用ゐになるといふのがホントなら、それはすこぶる當を失したことである。我等は　陛下及び殿下の鹵簿を拜して、我皇室の儀容のさかんなることを讃嘆渇仰したい、ロボの意義は、手輕とか輕便とか質素とかいふことで、左右さるべきものではない。

道德の保持者であり正義の實行者であらせられる我　天皇の出御は、天人ともに仰ぎみて、その盛德に隨喜の涙をそゝぐべき光景である、自動車ではそれができない、梵天、帝釋さへもその先駈後從となるべき筥の鹵簿について、儀仗兵をよして警官の先駈にするなどといふ、下らない時代迎合の設計をみることは、遺憾此上もないことである。

×

非政友合同とか、新黨樹立とか、政界の黨人どもは相かわらずゴタゴタしてゐる、黨人は唐人に通ず、その唐人のねごとよりもなほわるいのは黨人利奔の聲である。

利奔は狂奔だ、非政友合同などゝ、微弱な昨今の政友會をまだこわい者かなんぞのように、ことごとしい運動の先棒をかつぐもの、これひさしく隱遁してしかも禪坊主の糟粕をくらへる政界の老武者なにがし、その運動なるものゝ性質しるべきのみ。

なんぞといふと老人がとびだす、飛びだすのも結構だが、どうせ飛びだすなら、モウロクしない邊りでとびだしてもらひたい、山本首相さへ大分燒がまわつてゐるといふ評判だ、その、燒がまはつてゐるぢいさんにだまされて、おびきだされたぢいさんが、新黨の產婆役だといふ、とんだものをとり上げ婆アさんにした新政黨なるもの、畢竟烏合利合の輩。

×

後藤新平君は、報知新聞主催の講演で、「後藤のやる事は脫線ではない」といつた、當人のいふことだから、多分間ちがひはなからうといふことだ。

ところで、脫線でなければ何だとなる、曰く「無軌道自動車」だといふのが、後藤君の辯解である。

無軌道自動車はおもひつきだ、軌道があればこそ脫線のおそれもある、なければ、脫線したいとおもつても出來ない、そこで無軌道自動車は、名言々々、たゞしこの自

動車、軌道がないだけに、脱線はけつしてしないが、時々方向をあやまり、墜落、衝突等のことはなきにしもあらず、よつてこの無軌道自動車の通路にあるものは、あらかじめ警戒を要するむね、いづれ近日、内務省令としてでも公布される筈。

×

蘇峰氏はいふ。「我國の天災人禍に對する世界列國の同情に對しては感謝にて可也謝恩感恩といふはすぎたり」と。

米國などの好意を恩的に感じるといふことは、深刻な感じかたである、が、社交的辭令に累されて、てう〳〵しくおべつか的になつて、却つて日本の眞意を汚さんとするを悲しむものとして、蘇峰氏の言に幾分の共鳴を感ずる。（十一月二十三日）

×

後藤さんの骨折りでヨッフェがくる、犬養さんの肝いりで王正廷がくる、王正廷のくるのは、對露交渉に關して、日支間の諒解をはかる爲だそうである。

めさきをかへるには、外國から人をよぶに限る、そうしていろ〳〵な人をよんで、いつも豫備交渉といふのをしておいて、萬一の際にそなへる、といふのが、それが、おそらく政治家における百年のはかりごととでもいふのだらう。

×

上杉愼吉君の宅で、ある會合の席上血まみれ騒ぎがあつた、上杉君がいふ。

みんな國を憂ふる人たちが、なぐつたりなぐられたり、私もそんなめにあつて、めづらしいことではない、と。

なぐつたりなぐられたり、國を憂ふるといふことも大ていなことではない、なぐつたりなぐられたりでなければ、國が憂へられないようでも困る。

×

ある一部に說をなす者がある、後藤内相はやはり策士で、七億五百萬圓は當意即妙とやらで、結局後藤私案といふものがうかみでるんだか首をだすんだか、とにかくそういふ仕組だといふことだ。

もしそうとすれば後藤さんはほんとに策士だ、大策士だ、ほんとにそうはこんでくれて、後藤私案の五十億圓計畫ともあれば、大向ふは大喝采だ。

が、しかし、策を弄する前に、誠意をまづ披瀝したら、策を弄する手間もいらずに無事、私案なるものも通過しようにに。

河だちは河ではてる、策士、策でたをれなければしあわせ。

政治家に一つの標語を進呈しよう。
「お互に策略はよしませう」。

×

山王臺のバラック食堂で、食事をしながら、眼下につらなるバラック街をみて、淺草の五重の塔や觀音堂の棟のズーッと見とほせるのを見わたしながら、「あゝ見晴らしがよくなつた」といつてゐた男があつた。

これも觀方(みかた)の一つ。

×

告森法務官の自動車が、人をひきたをして知らぬ顔だといふことが、どんなに大事件なのだらう、些々たる交通事故ではないか、新聞が其のため二段も三段もつひやすほどの事ではあるまい。

×

米國から送られた毛布を配給する、配給をうけに殺到したもの幾萬、その結果が負傷者十數名、何をやらせてもこの不手際ヲ加減、政府や市役所は、一たい何をどうしてゐるのだ。

×

おもしろくない世の中だ、どこを見ても落つきのない、上(うわ)ずつた生活、コセ〳〵した生活、風袋ばかり大きな、見かけだふしな生活、無誠意な生活、不平ばかりいふ生活。

そんなことのみち〳〵た世のなか、世界、國家、復興だァ改造だァと、聲ばかり大きいこの時代を、かゞやきの時代とするのは、たゞ立憲養正會の事業である。

時勢の日に非なれば非なるほど、立憲養正會は世界の必要となる、人々この意義をわすれたまはざらんことを。(十一月二十五日)

×

新らしい葉書きは、判が小さくなつた、そのかはり、表面にも通信文がかけるといふことだ。

その葉書には、「市廳府縣名」「郡區町村字丁目番地」「宛名」などの指定があつて、下の通信文欄には、「上の欄には宛所のみかくこと」と記されてある。

ある人が、この葉書で速達便を依頼した、ところが、差出人の氏名が、切手の下のアキ間にかいてあるのは規則違犯だから、第一種とみとめるといふので、餘儀なく倍

額をはらつたといふことが、都新聞にでてゐた、

なるほど、「上の欄には宛所のみかくこと」とはしてあるけれども、切手の下には差出人の住所氏名をかくぐらゐの餘地は十分あるのだ、ところがもしそれを必ず下の通信文欄にかゝなければいけないのだとすると、通信文欄といふものは大へんちゞめられてしまつて、結局通信文欄ではなくなつてしまふ、

つまり葉書が小さくなつたといふのが落チだ、役人の仕事は、不便で杓子定規だといふのがオチだ。

×

近く皇城外廓の修理に着手して、和田倉門なども、もと通りの形で新しくなるそうだ、一時取拂はれそうな話もあつたが、どうやらそんなこともないらしい、めでたいことである。

今の、ダラシのない凱旋道路といふものをつくるために、いかにも立派であつた馬場先の見つけがつぶされた、もう二十年近くも前のことだ、惜しいことであつたが、こんど和田倉門は幸にまぬがれた。

これを機會に、江戸時代の城樓建築は、その優秀なるものと由緒のあるものとを、

みんな特別保護建造物として保存したいといふことを提言する。

聰明なる內務當局はかならずこの提言をいれてくれるだらう、ただこゝに心配なのは、「古社寺保存會」は名のごとく古社寺保存であつて、城は古社寺でないといふ意見のために、この提言も、あるひは無効となるかもしれないといふことである。

×

甘粕事件で證人によばれた某警察官、肝腎などころへくると、「記憶がありません」の一點ばりでおしとほす、めづらしいほど記憶にとぼしい人だ。

人生、事をともにする、わすれても記憶のわるい人とするものではない、甘粕君もよくそれを記憶しておくがいゝ。

×

雜誌「改造」に、大杉榮に對する諸家の追懷談がでてゐる、それによると、個人としての大杉にはかなりいゝ點もおもしろい點もあるやうだが、しかしそれはみな友人の話だからであるかもしれない、すこし、大杉の善惡兩面がわかつていゝだらう。

×

復興豫算にはまた鉈が加へられるといふことだ、いぢくりまはしてゐるうちにだん〳〵小さくなる、かうなると、復興豫算といふもの、豫算だか、ローソクだか、シャボンだか、何だかわけがわからない。

×

上野公園のバラック住民が配給をうける、三丁も四丁もつながつてゐる、その長い行列がちつとも動かない、

どうしたんだらうとおもつてみると、係り員みんなひる飯をたべてゐる。

（十一月二十七日）

×

甘粕事件の論告に、山田檢察官は、「思想に對するには思想をもつてせよ」といつた現代のだれかれがみんないふ言葉である、が、これは徹底した考へではない。

個人の場合は、思想に對するには思想をもつてするほかしかたがない、しかし、國家はちがふ、國家は、惡思想を壓伏制御することができる、

それが政治だ。

×

こんだ電車の中では、煙草をすふことをゆるすがいゝとおもふ、さもなければ、窓を開放して空氣の流通をよくする必要がある、くさいいきの人間と、二寸あるかないかの距離で、あひ面することは苦痛この上もない。

いくら衛生々々といつてみたところが、こんな始末ではしようがあるまい。

×

復興審議會は大搖れだ、いかにも地震のあと始末らしくていゝ、審議會を震議會とかへるとなほいゝ。

×

甘粕事件について、中頃新聞の態度は、甘粕に對して非常に冷笑的で、つまらないあげ脚をとつたりなんかして喜んでゐたが、しまひにはそんな事がなくなつた。

それは、甘粕君の態度、思想信念にみなぎつてゐる力が、しぜん彼等をしてまぢめならしめたのであらう。

甘粕君の中ごろの態度は、少々まづい點もあつたが、のちには實に立派なものであつた。

×

公娼廢止、公娼廢止、

公娼廢止も、女の名譽のためだとかなんとかいつてゐるうちは問題にならぬ、そんな上つ面な問題だけで、解決されるような小さな事ではない。

×

燒けあとには十一萬のバラックが建つた、人は、住むやうにしてすむ、たべるやうにしてたべる、復興も復舊も、この力を利用しなければだめだ、

此心を安定させえないような復興になにができる。

×

復興服だ、改良服だと、地震にあつた當座だけ、いろんなことをおもひつく。

目前のことばかりで、だれも百年の長計を考へぬ。

×

大杉の社會葬と新聞は報道する、社會葬じやなからう、社會主義者葬だらう、

日本の社會そのものが、無政府主義に改宗したとはおもへないから。

（十一月二十八日）

×

勞農ロシアの政府は、ロシア文豪の著作に對して、その出版權を政府の手におさめた。

勞農ロシアの主義政見はすこぶる感心しかねるけれども、政治としてのやりかたは各方面にわたつてなか〳〵徹底してゐる。

支那政府は、柯召文氏の「新元史」に對して、大總統令として、それを正史に編入したそうである。

日本政府は、こんなことに對しては一向無關心だ、それに及ばぬといふほどの意見があるわけではもちろんない、たゞボンヤリしてゐるのだ。

目前のこと、物質に限られた問題、そんなことをすこしはなれて、國家を靜かに考へる政治家がほしい。

×

內閣各省は、內務、外務、大藏、海軍、陸軍、農商務、遞信、文部、司法、鐵道、にわかれていづれも大臣が管掌してゐる。

二三の無任所大臣をおいて、各政務の聯絡、缺陷、齟齬、衝突、などを考察させる必要があらう。

×

火災保險の勸誘員がやつてきた、その宣傳のチラシをみると、「助け合ひませう」と大きくかいてある。

そのくせ、火災保險の現狀は、すこしも助け合ひになつてゐない。

尤も、助け合ふといふことが、政府に保證してもらつてやつと一割を支拂ふといふことであればそれは別だが。

×

自警團の暴行を問責すべく、「內鮮同志聯盟」といふものが、組織されるそうだ、順序がちがつてる、自警團あつての鮮人さわぎではない、鮮人騷ぎがあつての自警團だ、鮮人の不逞を調査糺明するのがさきだ。

×

復興審議會の、修正條項は、政府にとつての致命傷ともみられる、これでも擧國一致といふのなら、政府は、國民にむかつて、擧國一致を强いたのである、また誣いたのである。

×

鮮人殺し百六名の判決があつた、一番重いのが懲役三年、無罪がたつた一人、無殘なことだ、

このおびたゞしい犯人はどうして出來た。

山田檢察官の言葉をかりれば、

「主義者や鮮人の不逞騷ぎは、秩序保護の任にあるものゝ口から出たことは明瞭である」といふその結果がこの始末なのだ。（十一月二十九日）

×

廢娼デーといふ妙なデーをこしらへて、一日、ひま人（じん）たちが、廢娼贊成人を路上にもとめた。

腹がへつて困つてゐる昨今、バラックの寒さにふるえてゐる昨今、だれがまじめになつてそんな事にとりあうものか、

馬鹿々々しい。

×

ウソかホントか知らぬ、外務省では、バラックをたてるために、園內の自慢の老櫻や楓を切つて材料としたといふことだ、こんなのがおほかた、廢物利用とか、利用厚

生とかいふ、聰明な考へなのであらう。

×

イタリーでも禁酒運動がさかんで、人口一千人に對して一軒の酒屋だ、と、禁酒同盟會の理事、めんどくさいから名は忘れたが、某氏といふのがいふ。

ところで、と、一軒の酒屋でも、半軒の酒屋でも、一千人がのんでものみきれない程お酒を供給したとしたら、一たいどうなるんだ。

酒をきらひな人、おどろくほどみな血のめぐりがわるい、少し酒をのませる必要がある。

×

これからの女のショールを黑色にしろといふ人がある、どういふわけだといふと、イタリーのヴエニスの女は、みんな黑いショールをしてゐる、それはどういふわけだといふと、何百年とか前に、ヴエニスに大變な疫病があつた、その苦痛を忘れないために、ショールを黑くした、

だから、地しんにあつた日本人も、だと。

この人、ヴエニスへいつて黑いショールを見なかつたら、こんなつまらない考へさへも出ないのだとおもふと、折からの時雨の空もなんとなくこの人をあはれむかのように感ぜられることだ、下らない。（十一月三十日）

×

發明な御婦人方がおつしやることには、改良服の必要が、改良服の必要が。

新らしいとか、自覺したとかいつてみても、女では改良服ぐらゐのところが、先づ考へのゆきどまり。

×

縮少から縮少と一かはづゝむけてゆく、それでも面目がつぶれないといふのは、つまりどこまでむかれても、薤は薤にちがひない、といふ論法なのだらう。

復興院の人々仲々話せる。

×

此頃の新聞の案内廣告をみると、料理屋が女中をもとめ、カフエが女給を求めてゐることの、さかんなのに驚く。

町をあるくと、五軒に一軒ぐらゐのわり合ひで飲食店がある。

震災後の東京は、今、たべることにむかつて全力をそゝいでゐる。

×

地震のとき、アメリカにゐた我が一商人が、鐵の買占めをやらうとして、アメリカの製鐵業者に拒絶された上、自國の災禍に乘じて利益を得んとする行爲を面罵されたといふ話がある、悲しいことである。

國體心喪失の一實例。

×

警視廳からだした防火宣傳のビラに、

「一家の平和は火の元の注意にはじまる」

とかいてある、ムリにそういへばいへないこともないが、なんだか變だ。

×

同じビラに、

「火の用心は復興のいしずえ」

揃ひもそろつて、何んといふまづい宣傳だ。

×

妙高山を中心に世界的遊園地をつくるとか、どこそこを國立公園にするとか、聲はさかんだが、仲々實現の機運にはむかはないらしい。

そんことよりも、手つとりばやいことを一つ教へよう。

日本の山水はほとんどみな天然の美景だ、その美景を保護するために、切つてはならぬ木は、絶對にきらせないことにする、くづしてはならぬ山は、絶對にくづさせぬことにする、惡用してはならぬ水は、絶對に惡用させぬことにする。

そうすれば、國をあげてみな公園だ、なにもことさらに國立公園といふの必要をみない。（十二月一日）

×

省線電車がこむ、のり手の迷惑、驛員の困惑、喧嘩、女にいたづらをする奴、これ幸ひとスリの横行、現行犯をみつけても、身うごきならぬので、つかまへられない、これが、大正十二年十一月の世相、文明の世は、まだ二三百年もさきのこと。

×

火災保險の紛糾は、田農相の大失態だといふことだ、失態で紛糾したり、大風呂シキで修正したり、この內閣、鳴り物いりでなか〳〵にぎやか。

×

警視廳が百ヶ條の新規則を設けて、吉原の改善をはかるといふことだ、いゝことである、が、

それよりも、あらゆる遊廓を、國營なり、府縣營なりにしてしまつたら、理想的設備ができてよからうとおもふ。

なんとお役人。

×

審議會の修正にはどこにも無理がないと犬養氏の託宣、すると復興院には無理がありつたわけだ。

×

ところで、その無理のない修正案に對して、評議會委員は大てい憤慨、かう面倒になつてくると、どれが無理でどれが無理でないのだか、まつたく混亂、

「御無理御尤も」、とはこんな場合にでもつかふ言葉か。

×

北原俊子といふ十二になる女の子の話。

ドイツの小供が、九月のあついさかりに、帽子もかぶらず、靴をぶらさげて、はだしで歩いてゐる、「なぜ靴をはかないの」ッてきくと、

「靴をはくとヘルからさ」と。

×

市内電車の混雜などは、知らぬ顔の半平（はんぺい）だと新聞がいふ。

なぜ知らぬ顔だといふと、この半平さん元來禁酒運動に熱心だ、ところが、どんなに考へてみても、禁酒運動と電車の混雜といふ問題とはぜん〳〵關係がないそうだ、だから、だと。（十二月二日）（註、半平とは、時の電氣局長、長尾半平氏のこと）

×

博士の總數二千四百三名、そのうち醫學博士が一千四十六名。

これに對して岡野文相は、最近、醫學博士の簇出すること雨後の筍のごとしといつたそうだが、いかに藪醫者からの聯想とは云へ、雨後の筍ではたとへがあまり陳い、それに第一時候はずれだ。

時節柄、「醫學博士のできること、さながら燒あとの灰のごとし」、とでもいつた方が、適切でよからう。

×

支那では、例のごとく、「孫内閣案行づまり」といふようなことになつてゐる、「案」の行づまりとはおもしろし／＼。

日本風にいへば、「何々内閣行づまり」といふところを支那風にいふと、つまり「何々内閣案行づまり」なのだ。

この案と案でないところとが日本と支那とのちがひ、ちがひはたしかに違ひだが、しかし、どこか似てゐるところが同種同文といふお愛嬌。

×

だれが下駄屋をはじめても下駄屋にちがひはないようなわけだとおもふが、でも、社交界の花形で、しかも美人がはじめたとなると、たちまちこれが寫眞になつて、新聞の三面にもでれば、「週刊何たら」の巻頭にもかざられる。

女といふものゝ豪儀なことには、この大廣告がたゞだ。

×

吉原の玉代が切符制度になる、今に回數券もできよう。

たゞし定期とまではいくまい、ウンと割引きの、幾度でもどこでも、乘り降り自由は、汽車電車だけの事で、吉原では困らう。

×

谷崎潤一郎の戯曲「愛すればこそ」といふものゝ廣告文に「震災後に於ても、震災前に於ても、氏の藝術的地位は微動だもせない」とある、幸ひにしてこの地位なるものの無形であつたことが、谷崎潤一郎のためにどれだけ好運なことであつたか、有形なら勿論地震にやられてゐる。

×

『此際に「此際」の一語を葬れ』といふ人がある、尤もなことだ、なんでもかでも、此際々々と、この際をいゝことにして、まやかしをされては困る。

が、しかし、葬る前に、「此際」の一語を活用してはどうだらう、帝都の完成も此際においてし、人心の更新も此際においてし、國家の改造も此際においてする。

わが「天業民報」は、此際を利用し活用して、日本を本當の日本にしようと努力してゐる。

×

とにかく色彩鮮明な世になつてきた。共産黨もできよう、勞働黨もできよう、無政府主義者も團結しよう、どん〳〵やれ、やればやるほど、日本國體の主義主張は、

いよ〳〵堅固明確なものとなつて、あらゆる邪義惡想を、批判決着することゝならうから。

×

感心な大家さんの話。

貸家二十八軒、最高四十圓最低二十圓、九月は全免、十月は半減、十一月と十二月は二割・一月から八月迄が一割引、借家人がみんな喜んでゐるそうだ。

昔からいふ、「大家といへば親も同樣、店子といへば子も同樣」。（十二月四日）

×

おれは博士の候補者だといつて女をひつかけた、ひつかけた奴はわるい奴だ、わるい奴はもちろん處分する。

と、ともに女といふものを、もうすこしりこうなものにしたい。

それにしても、「博士の候補者」とはうまい事をいつたね。

×

火災保險問題で、關西のしめした態度は遺憾である。

打算は商人にはなければならないことではあらうが、打算を超越した場合の事を考

へてみることも、商人にとつて必要なことだらう、氣をもつて物に勝ちことに勝つといふことは、ソンなにむづかしい問題ではない。

時としてはまた、それが、打算以上の打算になりもする。

×

モデルが拂底、震災後、希望者が、澤山でるだらうとおもつたのに、すこしもこないと。

たまにくれば營養不良、なるほどこれは不良にちがひあるまい、そこで、豐な肉體美をもとめる美術家の希望にかなはず、すなはちペケ。

營養不良をとほして震災をみる眼、震災を感ずる心は、藝術家にはないか、

前古未曾有の災害も、繪かきには、問題にならないとみへる。

×

北京の人口は、最近の調査で、九十二萬四千三百三十四人、だといふことがわかつた、四千三百餘人とでもしておけば、却つて支那らしいのに。

×

列車が荷馬車と衝突する、審議會が復興院と衝突する、復興院が評議會と衝突する

保險屋が政府と衝突する。

衝突々々、衝突もまた現代世相の一つ。

×

一、流シ全廢仕リ候　　東京浴場組合

但シ御望ミノ方ニ限リ金五錢申受候

お望みの方は流すのなら、全廢でも何でもない、流しといふものはむかしから、みなお望みでやつたものだ。

×

一味ことゞ〳〵く大學生だといふ竊盜團が檢擧された。

小學も不良、中學も不良、大學も不良、結局この世はどうなるのだ、教育家よ、衷心よりこれを憂へて、現日本の教育を、根本よりあらためようではないか。

×

復興院がグズ〳〵し、復興事業せんたいがグズ〳〵してゐるのもまアいゝとして、小學校の問題、また單に兒童の問題で、いつまでも、不滿不平不足の聲をきくのはどういふものだ。

深川あたりの小供等は、雨の日は、傘や下駄がないので登校できないといふことではないか、そのくせ、學用品などは、どの小學校でもくさるほどあつまつてきて、困つてゐるといふではないか。

復興事業の矛盾、不徹底、不親切、無誠意、慨嘆の至りだ。（十二月五日）

×

新葉書の攻擊に對して、「あまり親切氣をだしすぎて失敗」と遞信次官が辯明する、不意打の倍額徵收は、けだし世界はじまつて以來の親切氣。

×

和田豐治が、審議會委員になつて大臣待遇、で、和田なんぞがなんだとつむじをまげたのが、評議會の方の實業家連で、さてこそ審議評議のいがみあひだといふ事だ、きいてみれば尤もといひたいが、どれもこれも鼻もちのならぬこと。

×

日支親善に幾分の貢献がしたいとて、關東長官の兒玉氏、關東軍參謀の松井氏、滿鐵理事の入江氏などが、家族同伴で滿洲各地の視察をするそうだ。

今まで、どうも日支親善がおもはしくいかなかつたのは、どの長官も、この、家族

同伴といふことをおもひつかなかつたからだらう。

×

漸く東京市營の大浴場ができた、震災後といつても、まだやつと三月だから、だれもまだ地震をわすれずにゐる、だから、なんで今頃東京市が、こんな大きな浴場をこしらへたのだらうなどと、今頃になつて風呂場のできたことを、あやしむものなどは一人もない、「あゝこの三月のあひだ、風呂じやァ隨分苦勞したなァ」つていひながら垢をながしてゐる。

×

荷馬車が、五臺も六臺も、時には九臺も十臺も、連續してとほる、交通巡査は、それをだまつてとほらしてゐる、迷惑千萬な。

×

淺草私娼窟のひやかし客を、片つぱしから檢擧して、一晩拘留するといふことだ、御念のいつたことで、お骨の折れる事だが、それよりももつと必要なことがあるだらうとおもふ。

×

コセ〳〵コセ〳〵とこまかいところばかりひろつて、大きいところは手ぬかりだらけ、呆れてのち悲しむ。

×

山本首相老いたり矣、といふものがある、權兵衛さんももう七十幾つだ、老いてることはじめからわかつてゐる。

×

此頃の新聞をみて驚くことは、「小學生庖丁で下級生を刺す」「中學生金時計を盗む」「不良兒捕はる」など、學生等の犯罪のおほいことだ。

昨日もこのことで慨嘆したことだが、ほんとに政府はなにをしてゐるのだ、第二の國民が、こんなにも不良になりつゝあることを、何ともおもはないのか。

×

東京の中央郵便局へ、切手を五百枚買ひにいつた、そうしたら十枚くれた、五百枚を十枚、この理由がどうもわからない。

新東京の七不思議はまづこゝいらからはじまる。（十二月六日）

×

林なんとかいふ女史、「たましひまでうちこんで愛しようといふ人があつたら」十分母としてのはたらきもしてみたい、と。

誤解があるといけないから、餘計なことのやうだが御注意までに申しておくが、これは、たましひをうちこんだ男の、母になるといふ意味ではむろんないのだから。

×

英國々會の婦人候補者が、演說中になぐられた、いかに我慢づよい英國人も、そういつまでも女の御機嫌ばかりとつてもゐられなくなつたとみへる。

×

總理大臣の山本氏が、西園寺公望氏の諒解を求め、斡旋をのぞんだといふことである、昔々、カイゼルの前では、法螺もふけたが。

×

米國が慰問品をくれた、感謝する、一方、無電問題の横車(よこぐるま)に抗議する。

支那が慰問品をくれた、わざわざ代議士が感謝にでかける、一方、支那人誤殺問題で、むかうからも特使がくる。

お禮をいふ、理窟をいふ、言ひわけをする、混々雜々。

×

防火地帶には絶對に木造建築をゆるさず、と。きびしいお觸れ。

その木造でない、もえないうちといふのへ、はいつてみると、なる程もえない、これじやアもえない、しき居、かも居、疊、障子、障子の紙まで、みんな鐵筋コンクリートだ。とでもあればとんだ落し話だ。

もう二三年もたつと、

「防火地帶內における家具は、絶對に木造をゆるさず」

と、いふような事にもならう。

其時、東京の火災保險屋みんな破產。

×

ムダで無意味な停車場の送り迎へを、生活改善の第一歩として廢止するといふことを門司鐵道局が率先宣傳する、こんなつまらないことが、生活改善の第一歩とは、心細い第一歩もあつたもの。

×

そうしておまけに、いふことが氣障(きざ)だ。

「因に先年、英國コンノート殿下が日本に御來遊の爲めロンドンを御出發の際、驛頭までお見送りした人は僅か三名だつた」と、まるでコンノート樣が、生活改善宗の御開山樣でゞもあらせられる樣な隨喜渇仰。

×

「氣の毒だが、いつ、もとゞほりの郵便切手がつかへるようになるか、見當がつかない」と米田遞信局長の宣告、

局長は局長で、豫言者でもウラナイ者でもないのだから、見當がつかないのは無理もない、セメて大本教の信者が局長でゝもあつたら、地震と一しよに切手の拂底までもみこして、ウンと刷りだめをこしらへておき、人民共にこんな不自由はさせなかつたらうに。（十二月七日）

×

「今年は、賀狀も節約しませふ」は、いかにも生活改善會のいひぐさらしくつていゝが、節約しませふにもしませんにも、大體、買はふたつて葉書がないことにまづ氣がついてもらひたい、「お互ひにボンヤリしてゐるのはやめませふ」位が、却つて生活改善會らしくていゝ。

×

「審議會も復興院もともに廢止すべし」と尾崎咢堂がいふ、もつとも、いつたところがめづらしい話でもなんでもない。

が、咢堂の意見や議論には、ほとんどすべて反對だが、これだけには同意見だ、といひうるほど、復興院の下らなさがひどい。

たゞし、咢堂の意見の細條は知らぬ。

×

一時、カルシユームがはやつて、何もかもカルシユーム、このごろは、東京市中いたるところにマーケットといふものができて、鼻をつく始末。

×

この五六十年絶對安全と、地震の今村博士御託宣、まづ〳〵安心、だが、わしらの孫共はさぞまたうきめを見ることだらう。

×

かなり人民共に迷惑をかけてゐる遞信省では、「電話道德の宣傳」といふことを思ひついて、また一困り困らせようと、計畫おさ〳〵怠りないといふ噂である。

その電話道德は三條項だ、

△通話はなるべく簡單にしたい

△鈴が鳴つたらすぐ出る事

△電話を他人にかけさせ呼び出した相手方を長くまたさないやうに

とある、右のうち、第二條項には左のような「但シ書」がついてゐる筈だ。

「但し本條項は交換手に適用の事」と。

×

新らしい葉書で人民をこまらせた遞信省は、またもう一層新らしい葉書をだすそうだ、様式はきはめて簡單とあるから、こんどは大して困る事もなからうが、かう頻々とかへられるといふことが困る、けれども悪い事をなをすのは悪いことではない、けれども、すぐなをさなければならないようなことを、いつもやつてくれるといふのは困る。

これでみると、困るといふことばは、諸官省の仕事の、いつもお仕舞につくことばとおもへば大した間違ひはなさそうだ。

×

レーニンがまた死んだといふ様な噂がある、こんどはどうもホントらしいといふことだ。

いかにレーニンとても、たつた一つの命であるべき筈が、生きたり死んだり、かうも自由に生死の轉換をやるところ、たしかに怪物たるに足りる。

と、同時に、レーニンに死なれては困るといふ點に、勞農ロシアの弱點がある、トロツキーもカーメネフも、口ほどにはないしろ物とみへる。

×

冬、不案内の高山にのぼつて死ぬ人がよくある、惜しい命だ、大切にしませう。

（十二月八日）

×

諒解といふことばも、時世によつていろ〳〵にかはる、最近での意味は、妥協、あるひはおがみだふしといふことである。

もつともこれは、政府政黨者などがつかつた場合。

×

是々非々は政友會ばかりとおもつたら、憲政會もこんど、おれも是々非々だといひ

だした。

是々非々はいゝ言葉だ、たゞ問題は、何が是で何が非だかだが、それがどうも明瞭でない。

すくなくとも憲政會の是が政友會の是であればいゝが、政友會の非が必ずしも憲政會の非でないから困る。

×

尾崎咢堂を復興審議會にいれなかつたのは、虎を野に放つがごとし、といつた人があるそうだ。

虎にもいろ〳〵ある、中には張子の虎といふようなゴク手輕なのもある。

×

支那の高總理は、豫定どほり留任した、豫定どほり辭表をだして、豫定どほり留任する。豫定も、かう順序よくゆくと、日本の天氣豫報などよりは、よほど確實のようだ。

×

震災は天の譴だつたとかなんとかいひながら、人間はやはり自分の生活だけに沒頭

して、他をかへりみるいとまがない。

人間の個人的欲望は、震災前よりもなをさかんになつてゐる。

復興とか復舊とかいひながら、ちつとも復興らしくなく復舊らしくないのは、復興院の罪大なりとはいへ、市民もまたまぬがれない。

×

市電省電傷害頻々。この調子だと、電氣局にも鐵道省にも、生命保險と傷害保險の兩課を設ける必要があるようだ。(十二月九日)

×

「第一線にたつ」といふのがこの頃のはやりことばだ、はやりことばだからいづれ結構なことにちがひない、せい〳〵まア第一線におたちなさいだが、

省電や市電にのる時だけは、わすれても第一線になどおたちなさるな、これはたつても立ちがひがない、第一、命があぶない。

×

守屋某女史の曰く、

「性慾は誰しもどうする事もできない問題だ、しかしそれは結婚で解決する」

と、結婚が、性慾解決のためのものだといふことになると、なんだか人生といふも、あまりに味氣ないような氣がする。

×

山本首相は、内閣組織のはじめに、秘密排斥の聲明をしたのに、西園寺へ密使をやるやら、政友會の幹部と云々は、どういふものだと非難の聲が高いが、かりにも山本權兵衛ともあらうものが、一旦聲明したことを忘れるといふわけは萬々あるまい。

秘密を排斥するといつても程度がある、つまり、この程度以上の秘密がいけないといふまでの事サ。

×

自分のことは自分で、とは天晴れ現代の標語の一つだが、そうとばかりもいへないと病氣は自分でするんだが、なをすのは醫者だ。

いそがしい人々、自分の身のまはりのことなど、一々してゐられるものか。

×

罹災の極貧者に衣類を與へるときいて、極貧ときはめをつけられた人達おこりだすだが、結局は貰ふ、何か一コネこねなければおさまらない世の中。

×

自由教育を施す兒童村といふのができるそうだ、自由教育はわるいことではない、たゞ一つ、嚴肅な點をおくことをわすれてはなるまい。

×

山本首相の長談議をきいた政友會の三總務、おどろいて、「實によくしやべる人ですなア」と感心する。

人民にきくが、よくしやべる總理大臣がいゝか、それともよく仕事をする總理大臣がいゝか。

×

被服廠あとに幽靈がでるといふ評判だ、ウツカリ喰ひ物にしようなどとおもふと、トンダ事になるぜ。

×

シン災後、女に關する男の犯罪がふえた、警察では「痴漢狩」といふのをやると、富士の卷狩、痴漢の卷狩、世相さま〴〵。（十二月十一日）

×

四月までにはいゝ郵便切手ができるそうである、四月までにはできるといふのを、手ッとりばやくいへば、四月まで不自由しろといふ事なのである。

×

こんどきたロイテル社長の曰く、英國での婦人議員の増加は、婦人候補者増加の結果だが、英國民は、必ずこれ以上の多數は望んでゐない、と。

「必ず」の一語がおそろしくきいてゐる。

×

小學校の教員が、生徒から、「先生、甘粕さんはゐらい人ですか、わるい人ですか」ときかれてよはつてゐるそうだ。

日本國家は、その國民を養成教育することについて、なんらの主義方針をもつてゐないのである、困つたことではないか。

×

震災後、狂ひが大へんふえたといふ醫者と、すくないといふ醫者と二タ通りある、いふがいふにならず、調査が調査にならず、學者といふもの、一たい何をしてゐることやら。

×

こんどは、交友クラブも、やはり是々非々でゆくといひだした、ここのところ是々非々大はやりだ、今に小供が、「是々非々遊び」なぞといふことを、やりだすかもしれない。

×

なんとお立會、あちらでも是々非々とおつしやる、こちらでも是々非々とおつしやる、アイ〳〵左様でござい。

×

山本首相が誠意を披瀝する、いつの新聞もいつの新聞も、そのことで一ぱいだ。

どうも、この誠意、よほど手數のかゝつた誠意であるらしい。

×

大杉の遺骨に對して、甘粕君の判決の報告をするそうだ、大杉にもし靈があるんなら、報告をまつまでもなく知つてゐようし、大杉は科學者だから、靈などみとめるものかといふことなら、報告したところがムダな話だ。

×

復興法案を死守するといふ、心細いことになつた、震災の百ヶ日頃にこんなことをきくと、復興だか復舊だかなんだか知らないけれども、とにかくお通夜にいつた樣なさびしい氣分にこそなれ、建設興隆の氣など毛頭ない。（十二月十二日）

×

東京の人口が百五十二萬にへつて、それで、今までは世界第五位の大都市だつたのが、第十位になつたと。

人間の數で、都市の位づけをするのはまちがひだ。

都市はよろしく人口を制限すべし、無制限に頭數をふやすのは、都市經營についての、根本的誤解。

×

帝都の空に敵の飛行機がきても、完全に擊退することができると、わが海軍航空隊では豪語してゐるそうだ、この一語に信頼しよう。

×

山本首相は今のところ猫だが、近き將來に虎になるだらうといふ觀測をしてゐる人がある。

おもしろい觀測だが、首相が虎になつた時分、相手が獵人（かりうど）になつて、鐵砲でももつてゐたら、さぞ困るだらう。

×

燒土と灰を河岸につみだし、それを船にはこびこんでゐる、女をまぜたわづか五六人の人が。

緩漫悠久をきはめて、ほとんど太古のおもむきがある、この調子だと、復興に十年を要するとすれば、灰の處分にも五年位はかゝるだらう。

×

こゝのところしばらく、犬養先生大もて、順送りに一人づゝもててゆくところ、まことに擧國一致の代表者をつらねたる內閣の名にそむかず。

×

農商務省を二つに分離せよといふ意見がある、商工務省と農務省とだが、それも一說だ、が、むしろ產業省を設けて、農、商、工を局とした方が、理想的でよからうとおもふ。

×

アメリカの女房達は、七分どほり禁酒令に反對だと、理由は、亭主どもが、高い金を出して密賣の酒をのむからで、これじやアたまらないといふわけだと。

×

鳩山なんとかいふ教育家のお婆アさん、「此ごろになつてホントに世の中の面白さを知ることができて幸福です」といふ、ナニが面白さだといへば、震災以來毎日徒歩で學校へかよつてゐる、それでからだが丈夫になつた、丈夫になるとはたらくことがおもしろくなつたからだと。

この人をもつとはやくあるかせたら、この考へはもつとはやくでる、もし震災がなくつて歩かなかつたら、この人、死ぬまで此考へがでず、世の中のおもしろさもわからずに死ぬところであつた。

×

普選の實現には難關があると、犬養先生再度の託宣、政友先生安心して可なり、ナニ、そんなことは先刻御承知と仰せあるか、さても〳〵。（十二月十三日）

×

臨時議會の服裝をフロックコートときめた、きめずともの事だ、燕尾服のつもりできた、フロックのない先生困つたそうだ。

ほんにつまらないことばかりきめて、肝腎なことはなにもきまらぬ。

×

震災後滿三ヶ月の東京での犯罪が九千四百五十六件、去年に比して七百六十件もおほいそうだ。

これもまた災禍の一として考ふべき事だらう。

×

ある新聞に、議會の開院式に大禮服をやめてフロックにしたといふことが、「日本儀式の一大進歩一大革命ともいふべき尊き紀念の日であつた」とある。

フロックが平民的だといふのも變なわけだが、「日本儀式の一大進歩一大革命」にいたつては、なんとも挨拶に困る、「尊き紀念の日」だといふことになつては、この筆者少々氣がヘン。

震災後、精神病者がふえたといふのは、これによると事實らしい。

×

「大岡裁きを其儘に此頃の温かい檢事局」と、新聞に書いてあるところをみると、從

來の檢事局といふものは温味をかいてゐたものと見へる。

そうして、温味そのものが讃美されてゐるところをみると、それをもつてゐる大岡裁きは讃美すべき裁きであつたといふことになる。

×

新らしくできた警官が、手柄をしようと、どんな微罪でもかまはず、やたらに罪人をこしらへる、そうしてこしらへた罪人を、檢事が、例の大岡裁きといふので、訓誡してかへしてやる。

恐ろしく手數のかゝることになる。

×

廢娼運動で女連が臨時議會へおしかけた、議會では廢娼どころではない、復興と普選のかねあひ、政府と政黨のかねあひで、一切夢中だ、そんなところへつめかけたところがなんになるものか。

騒ぎたがるものは、たゞ騒ぎたがる本能を滿足してさへゐればいゝ、廢娼の實があがらうがあがるまいが、そんなことは問題でない。

ことにそれが、女の事だから。

×

英國の、ロード、ウィリアムスといふ人は、獨身主義の奬勵者だそうである、獨身主義かならずしもわるくないとしても、奬勵は少々こまりはしまいか。

みんな獨身になつたら、其時世界滅亡。

×

機關士の居ねむりで、汽車が立往生してしまつた、脱線、顚覆、衝突からとう〳〵立往生にまでなつてしまつた、しまひには進行中の汽車が消えてなくなることともならう。

冗談じやない。

×

論語に曰く、歳寒ふして松柏の後凋を知る、と。日評子の曰く、歳寒ふして燒土の山積を知る、ことしももう餘日いくばくもなし、政府よ、復興院よ、市よ、市民よ、お互ひにすこししつかりしようよ。（十二月十四日）

×

また議會がはじまつた、苦痛はいろ〳〵だが、議會の開會をみるといふことも、ま

た我れらにとつての苦痛の一つだ。

議會は議會でない、惡口罵詈の會、野次喧騒の會、酔つぱらひの會、懲罰の會、政黨策戰の會、大臣無誠意の會、與黨拍手の會、野黨反對の會。

×

臨時議會は問題多々、普選こそ出ないが、復興にはいろ〳〵な問題がからむ、小川政友総務は、早くも大杉對後藤の關係、附けたり後藤氏の桃色を問題にした。

首相内相、いづれもこれに對して、一語明確に否定することをしなかつたのは遺憾である。

すべてが、明確に表現されないのが、所謂官僚政治、所謂政黨政治の弊の源だ、一言一行をゆるがせにしないのはいゝことだが、首相うり物の誠心誠意がほんとなら、術數を弄する必要はないのだから、手間ひまいらず、簡單に答辯して、それでラチがあく。

とはいへ、彈劾するものやはり誠意がないのだから、たゞちよいと小當りにあたつたまでゝ、したがつて、首相と内相のおんによご〳〵で、幕。

×

議會政治はうるさいものだ、いやなものだ、しかしそれを改善することはできる、その第一要件は、いふまでもなく黨派心をはなれることだ。

復興も普選も、すべておもちやだ、傀儡だ、「傀儡師胸にかけたる玉手箱」が、つまり政治屋、政黨屋のハラだ。

臨時議會本會議の第一日は、つまり相互の形勢觀望にすぎない、何がでるか、どうなるか、大ていわかつてゐるようで、わからないところが、政客豹變のいたすところである。

×

日評子、永々と議會のことをいつた、議會はいやだ〳〵といひながら、いつた、つまり議會に未練があるわけだ。

日評子等、立憲養正の事業に從ふものは議會が目標だ、すなはち、我れ等立憲養正會員が、議會に絶對多數をしめた時が、或は第一黨になつた時が、まさしく、われらの理想成らんとするの日だから。

われらは、必ずしも議會政治を謳歌するものではないが、この一門こそ、立憲養正の大業成就の可能性を、時間的に證明しうべき唯一の標準點である。

だから、議會のことがらは、お互に氣をつけてゐなければならない、政界の形勢ではない、議會といふものが、どんな風になりつゝあるかである。

國務の當局者がどんな心持でゐるか、それを監督すべき議員等がどんなものであるか、それが大事なことだ。

日評子少々脱線の氣味、たゞし、これは後藤氏のいはゆる無軌道自動車ではない、もちろん大風呂敷ではない。(十二月十六日)

×

後藤がにくいなら正面から攻撃しろ、後藤がにくいからつて、復興院もよせ、豫算もけづれでは、國民が迷惑するといふものがある、後藤がにくいにくゝないは日評子の知らざるところ。

たゞ、復興院が廢されたからとて、豫算がけづられたからとて、國民は大して迷惑は感じまい、あんな程度の復興ぐらゐは、東京市民にまかせておいても、立派にできよう。

×

中外の春秋子はいふ、

「雜誌改造の十二月號は大杉號だ、これに對する甘粕號はいつでる、十年後の十二月か」

と、ひやかしてゐる、そうかもしれない、雜誌とか新聞とか、かりにも社會を指導しようといふものが、無政府主義者を謳歌し、嘆美し、追懷してゐるような世の中だから、それを政府がポカンとしてゐるような世の中だから、だからこんなに混亂してゐるのだ、甘粕も可哀そうに。

×

支那の王公使が來任すると、またもや二十一ヶ條の交渉が開始されるそうだ、そうしてつまりは旅大の回收といふところまでこぎつけようといふ腹づもりらしい。

支那政府に忠言をよす、旅大の回收は絶對に不可能だ。

×

仙臺鐵道局は、無意味な送迎者の入場お斷りを斷行したそうである、お手柄なことで、御聰明なことだ。が、無意味な送迎者といふものが果してあるものだらうか、送り迎への當人たちは、みんな何か意味があつて、送り迎へするつもりでゐるんだらうし、よしんばまた無意味な送迎者といふのがあつたとしても、「私は無意味な送迎者

ですが」と、屆けてゞもくれなければ分りもしまいし、せんたいどうして、お斷りを斷行するのだときけば、「サア、多分、人相見でも雇つて見わけて貰うんだらう」

×

不評判な新郵便切手も、新きまきなをしだといふことだ、目下、圖案の考案中だとある、まア明日といふ日もあれば、來年といふ年もある、春永にどうぞ御ゆつくり。

×

あるところの夜警のテントに、「公認」と、すみくろ〳〵と書いてある、公認はおもひつきだ、でないと不良自警團とまちがへられるおそれがある。

たゞしこの自警團といふもの、はじめは公認どころか、上お役人のお聲がゝりでできたものだとのこと。

×

良民射殺の怪事件と、新聞がまた大きく書きたてた、警察は不良だとおもつたから殺し、新聞は、殺されたから良民だとおもつてゐるのだらう。

×

下らない雜誌が、震災でだいぶつぶれていゝあんばいだが、でも殘つてゐるものがまだかなりある、なんとか始末をする法はないか。（十二月十八日）

×

大杉の遺骨がぬすまれた、ぬすむやつ、ぬすまれるやつもぬすまれるやつ、話にならない。

×

「横濱最後の日」といふ本ができた、勿論「ポンペイ最後の日」のまねではあるが、ポンペイは最後でも、横濱はまさか最後ではあるまい。

×

學者といふものがいふそうだ。

「日本人が一年間に飲む酒は約六千萬石、約二十億圓、そこでその三割を節すると、復興費の六億がういてでる。

節すればういてでるが、節しなければういてでない、節せられることならとつくに節してゐる、一人でその三割を節するわけじやない、みんなで節するのだが、みんなにそれを節せさせるにはこの先百年もかゝらう。

學者を、空論の世界よりすくひうるの日はいつか。

×

十三日の衆議院は定員數に達しなかつたといふことだ、二日を延長するとかしないとかいつてゐるほど、いそがしい議會なのに、定員數を欠いて散會になるとは何たることだ。

政界の衆生度し難し、國難は震災だけの意味ではない、震災なぞはほふつておいても復活する、厄介なのはあの手合だ、これはなをそうとおもつてもなをせない。

×

デモクラシーが平凡を理想とすることに、人間は漸くアキがきたようだ、平凡人同志がよりあつまつて、「お互になんとかしませふ」といつてみたところが、なんともなりようがないから。

×

衆議院の本會議でも、豫算總會でも、復興委員會でも、大臣は居眠りをするものときまつてゐるとみへて、いつの新聞にも、うるさいほどその記事がある。

大臣議會で居眠むり、議員議會で酒をのむ間、ほんとの政治はさておき、政治に似たものさへ、此國にはないとおもはなければなるまい。

×

岡實氏は、「滿洲を經營するのに自已の主義でやらうといふのがまちがつてゐる」といふ。

さうして、「すべての主義で仕事をするところでない、土地に適合したことをやるのが肝要である」といふ。

この說には少しいゝところがある、しかしなほかういひたい。

「主義は主義で、必ずなければならない、たゞその主義を遂行するに、土地の事情を非常に考慮しなければならない、つまり、主義を土地に適合させるようにやらなければならない」

と、かうである。

×

浙江の盧永祥は、あくまで直隸派に當ると傲語してゐる、かれの一擧一動は、支那全體の視聽をあつめてゐるともいへよう。

江蘇浙江の風雲すこぶる急、しかもかれの傲語をきけば、彼れには十分の戰備があるものと思はなければなるまい。

支那は、變化ではない、同一の事情を無限に推移させる、たゞ人間の名前がかはるだけ。（十二月十九日）

×

列車が一時間も遲發する、衝突する、郵便犯罪で小包のぬきとりがさかんだ、鐵道所管の事項、遞信所管の事項、その混亂おほむねかくの如し、ひたすら當路者の反省をいのる。

×

沈没すると怖いといふので、潛水艦の職工が增給運動を開始するといふことだ、萬一危險の場合、僅かの增給で樂に死ねるといふのなら、やすい命だ、增給するサ。

×

政府も進退兩難、政友も進退兩難、是々非々劇ダンマリの場とござアイ。

×

北京政府の教育部は、女學生の斷髮禁止令をだした。

理由はわからないが、必要と感じたら、そんな些細なことにまで干渉するといふことはおもしろいことだ。

日本の政治家にも、こんなところはすこし見ならはせたい。

×

生きた教育が日本にかけてゐると、アメリカ歸りの女がいふ、といへばとて、死んだ教育といふようなものゝあるわけもないが、それといふもみなヘタな西洋風の教育をまねした祟。

×

大杉の葬式、白骨なしでやる、これがほんとの骨拔き。

×

後藤內相のいふところによれば、大杉に五百圓やつた、それは賃譯の代である、歷代の內務大臣みなそのとほり、飜譯を大杉にやらせてゐたのだそうである。

飜譯は大杉でなければできないものと、歷代の內務大臣といふもの、みな考へてゐたものとみへる。

×

おもひあまつて兩親をしめ殺したといふいたましい話がある、ムザンな話だ、かういふ事件がかなりふえてきた。

道德といふものが法律にもならず、政治にもなつてゐない證據だ。（十二月二十日）

×

清盛塚をほつたら、頭蓋骨が一つでた、清盛のじやなからうかと、兵庫縣社會課では、專門家に鑑定させてゐるといふことだ。

「おれの頭を鑑定する專門家といふのは、せんたいなんの專門家だらう」。と、清盛地下でおどろく。

×

大杉の葬式に、不穩な弔辭がたくさんでる、警官だまつてゐる、これが時勢の進歩といふのだと、いふことであれば、その進歩まことに寒心すべし。

×

今後、警察署長に思想試驗をおこなふそうである、どんなことをやるか、その方法がみものだが、せんたい試驗の標準をどこにおくか、現今の社會にあつては、これが大問題だ。

×

議會で、ある代議士が、當局はナゼ朝鮮人殺害の發表をさきにして、不逞鮮人の方をあとにしたのかと質問したら、司法大臣は、

「當局は、不逞鮮人をさきにしたのだが、新聞が、自分の方の都合で、鮮人殺しの方をさきにした」

と、辯明した。

いかに社會の耳目を以て任ずる新聞紙も、火事と地震には狼狽もしたらうから、あとさきめちやくちやなこともあらう、記事のしまいの方に「込み合ひの節は前後御容赦」とでもしておくとよかつた。

で、ないと、なんだか故意にしたようで、新聞紙といふものが、いかにも有害無益なものになるから。

×

支那では、各省の督辨たちが、おほ勢の部下を引つれて、財政部にゆき、財政總長の王克敏をとりかこんで、「有金のこらずだせ」とおどしつけた。

やることがいかにもチキバキしてゐる。

ところで錢はない、ないものはだせない、これまた頗るキビ〳〵したもの、總長おこつて辭職、閣員極力ひきとめ、各省督辨空うそぶいて我不知道。

×

後藤新平氏が東京市長時代、いろ〳〵な調査を囑托した「囑托」といふ名儀の人が二百人ばかりあるそうだ、俸給、高いところは六千圓位からあつて、一部にはいそがしい人もあるそうだが、大ていはまづひまだと、のみならず顔だしをしないものさへある、そこで近々囑托の整理を斷行する筈だと。

ムダなものをつくつては、一々それをまたつぶしてゆく、その骨折といひ物いりといひ大ていなことではない。

×

占領するつもりでゐた廣東の稅關を、外交團のためにさきへ占領されてしまつた孫文、なんでもわたせと、また引渡しを要求する一方、廣東軍の林虎は、孫文は、西南各省を代表するものでもなければ、廣東をさへ代表するものではない、どうぞお渡し下さるな、とたのんでくる。

どこまでこんがらがるのか、順序よく問題を發生させることにかけては、支那は世界一。（十二月二十一日）

×

山本權兵衛氏が、政友會の復興修正案にサッサと忍從してしまつたあとで、憲政會は原案支持の演說をした、天下の奇觀である、勿論、壯觀ではない。

×

首相忍從聲明後の憲政會原案支持に對して、政友會、首相がすでに修正案を尊重するのに、憲政會が原案を支持する必要はない、は、實によくきいてゐる言葉だ、憲政會ギヤフン。

といつて、何も政友會がゐらいわけではないが、勢にのると、すべてがこんな調子だ。

×

ピストルを買ひにくる女客が多い、自衛のためだといふが、自殺の方にも用だつことは勿論だ。

×

帝都を復興する筈の復興院が、政友會の一ゆりでつぶれてしまふ、こんどの地震はくよくたちがわるいとみえる。

×

政府の、復興案に屈するは、普選案に大いにのびんがためであるそうだ、政府、尺とり虫について大に學ぶところがあつたとみえる。

×

首相が、本會議の劈頭の忍從聲明は、最後に聲明する筈が行き違つた爲であると、復興案のまづさかげん、終始一貫。

×

米大統領の教書をみて、勞農外相のチチェリン、早速色目をおくつたところが、あいにく拒絶ときた、一時日の出のいきほひともみられた勞露も、このところ四苦八苦の態。

×

ギリシヤでは、國の政體がきまるまで、國王を國外に放逐した、古い文明の國だけに、事件が一層いたましく感ぜられる、が、古代のギリシヤそのものは、君主國といふよりは、むしろ大きな民主國であつたのだ。

×

清水の鐵舟寺が、大杉の遺骨埋葬をことはると、すぐそばの袖師村の眞福寺では、

この際物で一ト當てあてようと、埋葬方を大杉の遺族に申しこんだそうだ。

この坊さん商賣にかけては仲々機敏だ　坊さんにしておくのは惜しい、やめさせて葬儀社の外交にでもしてやりたい。

×

王正廷氏の夫人が、日本趣味を味はふんだと、天どんをたべる、屋臺店の三十錢の天どんで味ははれては、日本趣味も災難。

×

今の世に、人物と目すべきものは一人もない、原敬氏の存生中には、原敬氏の先輩同僚儕輩の中に、二三人ぐらゐは、原敬氏に比しうる人物があるやうにも噂されたものだつたが、

最近の政局をみるに、原氏と太刀打のできるような政治家は一人もないといふことが、明白になつた、なんどもいふことだが、原氏の思想信念などはとるにも足りないたゞかれの手腕力量は實に大したものであつた。

偉人の死をおもふては涙なきをえない。（十二月二十二日）

×

東京の大角力が春場所を名古屋でやるのがけしからぬと、知名の人々等さはぎたてはては、大詔の御旨意にもとるとかもとらぬとかいふ大それた意見もでたらしい。

たかゞ大角力を、どこでやらうとかまはないではないか、東京を見捨て名古屋にいつてしまはふと、そんなことは問題でない、もしそれを懲らすといふなら、こんど東京でやらうといふ時にウンと取つちめてやればそれでいゝことではないか。

ナニも、相當知名の人たちがワア〳〵さはぎたてるほどの事ではない、もしまたさはぎたてるにしても、世間では一ト月二タ月も前からいつてることなのだ、それを今頃になつてかれこれいひだすとは、ぜんたいどうしたものだ。

復興の東京には、しなければならないことで、閑却されてゐることが澤山ある、そんな方面には少しもかまはずに、角力位でヤツキとなるとは、本末輕重を顚倒も甚だしい、なんといふあきれた世相だ。

×

フランスの下院は、ラヂウムの發見者キユリヱ夫人へ、四萬法の年金を贈ることを滿場一致で可決した。

學術の成績もあがるわけだ。

×

總理大臣、貴族院で、大見得をきる。

「山本權兵衛こゝに在り」

はよかつたが、「見解の相違はいかんともしがたし」と政友の修正に對して長嘆大息、そゞろにものゝあはれをおもはせる、

權兵衛内閣歳晩の辭。

×

白骨事件また停頓、骨の折れること。

×

復興院の廢止につれて、復興案も造作なほしとある、たゞしこの造作なほし、復興院の建築局ではまにあはず。

×

ホワイトハウスの館上に、赤旗をひるがへすといふ計畫が露見した、米國國務省あはてゝ、勞露外相チチエリンの交渉を拒絶する。

×

支那内閣はまた總辭職ときた、たぶんそうくるだらうとおもつてゐた、この次は留任、それからまたといふわけ。

×

あるところの常識試驗に、「乃公」といふのがでた、その答案が「乃木大將」「野合」の答案が「ベースボールの運動」。（十二月二十三日）

×

有島武郎を崇拜のあまり萬引をした男がある、心中でもすれば本ものだが、あいにく手頃の相手がみつからなかつたとしても、崇拜のあまりに萬引といふにいたつて、その崇拜と萬引の關係といふものが、頗る難解だ。

×

「世界に誇るべき一大雜誌王國」といふへンな王國ができた。

王國といつても、これはいたつて手輕だ、ただ毎月六つか七つの雜誌をだしてさへゐればいゝ。

が、王國もだん〳〵下落する、三井王國、岩崎王國、それから雜誌王國、しまひに小間物王國、あらもの王國、魚河岸が魚の王國、多町が青物王國。

帝國ホテルが旅館王國、精養軒はいふまでもなく洋食王國。

×

支那の參議院がゴタ〳〵することは、日本と大差はないが、議長を取圍んでの葛籐は、めづらしいといへばめづらしい。

議長の吳景濂は、たまりかねてとう〳〵天津へ逃げだした、逃げながらも、政府彈劾通電といふものを方々へうつた。

仲々なれたものだ、同時に、電報をうつことにかけては、支那人ぐらゐ錢を惜しまないものもない。

×

シンガポール根據地問題は、どうやら中止になりそうだ。

事それ自體が、東洋に對して一の脅威をあたへることであると共に、完成のあかつき、一旦ことあつた時、はたしてこの根據地が、どの程度にまで役にたつかは疑問だらうから。

平和を愛好するはづの英國は、すゝんでこの問題を撤回することが、聰明の聰明なるものだ。

×

アメリカの大統領は、また〳〵新軍備制限會議といふものをおこす意志をもつてゐるとかいふことである。

將來、これがアメリカの年中行事ともならう、大統領がかはるたんびに、またしても軍備制限、またしても軍備制限、それで世界の軍備がどうもならないところが、愛嬌をとほりこして滑稽。

×

時勢の變遷をしらない保守的思想の人から見たら、大杉は、日本の國體をわきまへない不埒な人間とも思はれようといふ人がある。

日本の國體を無視しなければ、進歩的な人間になることができないのか。

笑ふにたへたる見解だ。

それが、さももつともらしくいはれてゐる、馬鹿〳〵しい世の中だ。

×

流言蜚語の勅令を廢棄すべく、同盟記者團が決議した。

まだ存續の必要はある。（十二月二十五日）

×

日評子つら〳〵時勢をみるのに、どうも甚だくだらないのである。

どうしてかう下らないのだか、ほとんど判斷に苦しむほど下らないのである。

新聞といふ新聞は、のこらず、この下らなさを滿載して、それで八頁だとか十二頁だとか紙面の大をこれ競つてゐる、その下らなさにいたつては、お話にもなんにも、なつたものではないのである。

紙面が大きければ大きいほど、新聞そのものゝ下らなさと、社會の下らなさとが、よけい鮮明になるのではないか、それをそうともおもはずに、紙面さへ大きければ、それで新聞が立派だとおもつてゐるのだからおかしさもおかしい。

日評子が材料をとるのは概して新聞である、日評子は、僅か二段のこの日評をかくために、東京で發行されるほとんどすべての新聞をみるのである。

新聞を讀むぐらゐなことはきはめて樂なことだらうが、だれもおもふことだらうが其實、新聞を讀むほど苦痛なことは世にあるまいと日評子はおもふのである、時として、前世にどんなわるいことをした報ひで、いまこんな憂き目をみなければならないのであらうかと、ウンザリしながらも、一種の罪障觀をこらさなければならないほど

苦しいとおもふのである。

下らない新聞紙は、その下らなさによつて、世間を下らなく指導してゐる、下らない指導の結果、世間はだん〳〵下らなくなる、その下らなさが、新聞の材料になつて下らない記事をつくり、その下らない記事で構成されてゆく新聞が、また下らなさを以て社會に面會してゆくあんばいは、つまり下り客ばかりのエスカレーター、向下墮落にキリがないのである。

下らないことに、そう奇抜なことゝいふのはない、たまにそんなのがあるとしてもゴク少數で、まづ大ていは嚙んでほきだすといふよりも、嚙まずにほきだしたくなるような代物ばかり。

下らないといふことに、大してかはつたことはない、みな大てい同じようなものばかりである、たとへてみれば、大臣も下らなければ議員も下らないといつたようなわけで、萬事が似てゐるのである、下らないといふことは要するにみな單調なことばかり、ものばかりである、それが單調でないとなつたら、もう下らなさの限界はとほりこしてゐることになるのだから、下らないといふことに安住しようとおもつたら、單調といふ原則は、どこまでも遵奉しなければならない。

そこで、世間といふものは、おつくりかへし、ひつくりかへし、年中おなじようなことばかりやつてゐるのである。

そのおなじようなことの數が、日にいくつづゝでも、だん〳〵ふえてゆくやうに、やつてゐるのである。

×

日評子、歳晩の感すこぶるおほい、まづその一つとして、下らなさの嘆を發す、ある人、日評子をよんで痛快無比といふ、日評が痛快によまれる間は、世間昏昧くだらなさの限りだとおもふと非痛の感なきをえない。（十二月二十六日）

×

火保問題握りつぶしで、市内の大家さんたち迷惑この上もない。

震災そのものが災難であるといふことの以上に、震災後の、政治家の野心と、政黨やの黨略が災難であるといふことの方が意義重大。

震災は、時代の大區劃だ、更始一新、これをさかひとして、所謂政治家、所謂政黨を葬れ。と、いつたところが、わかる世間ではない。

×

こんどの震災でつぶれた木造家屋は、東京山の手で百棟のうち三棟、下町で百棟のうち五六棟だといふことである。

かういう實例については、復興當務者が十分な考慮を拂ふことを希望したい。

會社工場以外、住宅地帶などは全部木造にしてすこしもさしつかえないことだ。

×

内閣不評判のうちに、臨時議會の幕がおりた、今のいはゆる政黨にあきたりない人間から歡迎された政府は、もろくも政黨のためにシテやられた、いはゞまづかへりうちにあつた形だ。

が、山本權兵衛も男なら、「やはか此まゝ」と、思ひ入れよろしくあつて、通常議會にのぞむがよからう。

最後の御奉公だ、黨略のほか何もない、利權のほか何もない、政黨といふものを叩きつぶせ。

だが、一部の人から、左傾的と目せられる閣僚を有してゐる山本氏の内閣が、はたしてよく政黨をむかふにまはして健闘しうるか。

普選の唱道が、そのいはゆる左傾的立場から來たものならば、山本内閣は、復興案火保已上の大難關に遭遇しなければなるまい。

山本氏の組閣には、なんの成算もなかつたらしい、ある方面の觀測では、

シーメンス事件の雪冤

御慶事

元老

などがあてこみで、飛びだしたものだといふことである。

だから、何もかも忍從したのだといふことである。

事の眞僞はしらない、もし評判のごとくなら、山本氏の押賣りした誠意は虚僞だといはなければなるまい。

×

「藝妓にうかれる亂倫の市長」といふのがある、藝妓にうかれるといふことは、いいことではあるまいが、まさか亂倫ではあるまい。

×

タイプライターで勅題を詠進した青年がある、タイプライターでは採用にならないかもしれないといはれて、文明の利器を應用したものが採用されないとは何だとおこ

りだしたそうだが、
なるほど、馬鹿につける藥はない、タイプライターが、文明の利器であるにしろないにしろ、詠進には詠進の規定がある、その規定にそむくといふことは、非文明の骨頂だらう。

×

年末總勘定、大杉の骨もやうやくありかゞわかることになつた。（十二月二十七日）

×

四十八議會に對して、「不愉快ながら、政府の態度を監視しよう」と、加藤憲政會總裁がいふ。
たゞしこの監視といふことは、議場において政府のために拍手することである、お心得のために申しておく。

×

今の政友會の人たちが、故原敬氏の話をする時、故人をよぶに、大てい原君といつてゐるようだ、原君といふと、なんだかいかにもおのれの友人でもよぶようだ、原氏の生前、その人たちは果してよくそういひ得たか。

その原君の生前、政友會はガタリともいはず、蓋棺ののちになつて、あのゴタ〳〵このゴタ〳〵だ。
原君などと大きな顔をせずに、原先生とか、前總裁閣下とでもいふような心がけなら、何のさはぎもゴタつきもあるまいに。

×

「クリスマスはめでたい日である」と、東朝の問題子はいふ。
「世界四聖の一がこの日を以て生れた」と、いふ。
「もろともに、めでたくこの日を送らうではないか、おれは耶蘇の信者でないからなどとケチ臭いことをいふまい」。
といふ、結構な心がけであるが、ほかの三聖にはそうもいはずに、クリスマスだけにそういふところが、甚だ結構ではないのである。

×

印度の國民議會で、「印度國民盟約」が討議されることになつてゐる、これは人種平等運動である、將來のインドは、英國にとつて、アイルランドよりわるいことになるだらう。

シンガポール海軍根據地ぐらゐで解決される問題でない。

×

白骨をバスケットへおさめて、悠々と警視廳へのりこんだ狀貌魁偉な壯漢がある、なんだか、新らしい水滸傳でもよんでゐるような氣がする。

×

善行捜査隊といふものができて、震災美談の調査をした。

善行は、鐘と太鼓でさがさなければわからず、不善行は、善行のやうな顔をして、新聞紙上をにぎはしてゐる。

×

日評子、この日をもつて、大正十二年における「社會日評」の筆をおさめる、おさめるにあたつて、感慨禁ぜざるものがある。

いふまでもなく、ことしは「立憲養正會」のできたとしである。

未曾有の國難に際して、我等の上に「同志結束令」の下されたとしである。

そうして、その事業は、「天業民報」を中心として、晝夜兼行、非常な努力のもとにいとなまれてゐる、すくなくとも、つぎの一年間において、われ〳〵は、日本國家の

上に、非常な相違を來らせるべく奮闘しつゝあるのである。

社會の缺陷、不十分、墮落、專横、不誠實、滑稽、はかねてから知つてゐる、しかも、日評の筆をとるに及んで、以上の諸案件の錯綜交雜して、ほとんど、いづれをいづれと、みわけがつかないほどなのに驚かざるをえないのである。

渺たる「社會日評」は、立憲養正會が、なすべき事業と必要とについて、統計をとつてゐるやうな役目である。

本年は萬事忽忙、取材はもとより、筆にもまた、意にみたぬものがおほい、仕方がない、たゞ大正十三年において深く期するところがあることをつげて、此筆を終る。

我同胞諸君、めでたく御超歳、復興の新春をお迎へあらん事を。（十二月二十八日）

大正十三年「社會日評」の筆をはじめる、もとより零碎な筆ではあるが、一字一句にもよく天下を警醒し、社會を指導せんとする至誠と信念とを傾注して、國家改造の暗示としたいと願ふ。

×

大正十二年末の大不祥事について、山本内閣は、責をひいて總辭職を斷行した、責めをひくことはしつても、これによつて、國民の緊張をうながすことを知らない、國家を警醒することを知らない。

×

大不祥事は起つたが、皇位の尊嚴は、小さき人間等のいかんともすべからざるところである、　攝政宮は、巍々堂々として議會開院式にのぞませたまふ。

國民こぞつて御安泰を慶祝したてまつれる中に、西園寺松方といふ二人の元老は一たいなにをしてゐる。この國家の大事變にあたつても、なほ悠々自適してゐることが元老といふものゝつとめでゝもあるのか、なぜ急遽上京して御見舞を申上げない。

時局重大とあるたびごとに、いつも御使を頂戴するのでなければ、元老としての貫目がないとでもいふのか、政治の難局に際して問題多端、御下問もしげ〳〵とあることだらう、なぜ入京して聖旨をやすんじたてまつらうとはしないのか。

こんどこの「經綸錄」を出版するにつき、この一節を讀んで、予は實に感慨を新たにした、この一節で、予は元老の不臣を憤つたのであるが、しかも元老の不臣はたゞこの時ばかりでなく、昭和七年一月八日の櫻田門外の大逆事件においても、依然としてこの不臣の態度をあらためなかつた事を予は實に恐れ多くも勿体なくもおもふ、大逆、これ實に恐るべく、悲むべく、驚くべき大事件ではないか、玉體安康と承はつて飛びたつ樣な喜びで、天顏を拜したいとおもふのが、臣子としての情であるのを、區々たる政變ごときに一々上京する西園寺が、兩度の大變に上京御見舞を言上しなかつたといふ事、不臣これより甚しきはない、かゝるものが國家の元老としてあるといふ事、まことに國憂の最大である。

今日、政界に蠢動する人物、その元老といひ、閣臣といひ、議員といひ、政黨者といひ、吏僚といひ、みなわざはひならぬものはない。

その尤もわざはひなるものが、元老と政黨者である。

×

權兵衛老ひたりと、朝野をして嘆せしめた七十二歲の山本氏挂冠して、七十五歲の清浦氏内閣を組織す、狐疑逡巡左顧右眄、なるが如くならざるが如く、出るが如く、ひつこむが如く、受けるかとおもへば辭し、辭するかとおもへばまた忽ちにして受け

泣きを入れたかとおもへばその口ですぐたのみ、苦情が出てはくびのすげかへ、椅子のとりかへ、まことにもつて七十五歳の老翁たるにはぢない。

×

貴族院内閣かならずしもわるくない、はやい話しが、なんの内閣でもいゝ、とにかく政治らしい政治がやつてもらひたいのだ。

ところで、それが、今の所謂貴族員内閣に求められないことはわかりきつた話なのだ、だから困るのだ。

政黨の無力おどろくばかり、その無力な政黨、いはゆる烏合の衆といふをたのんで喧燥をきはめる、それがわざはひだとおもつたら、國民こそつて、なぜその政黨をたたきこはさぬ。

更始一新とはつまり出なほせといふことだ、今までのすべてはみな出そこなつたのだ、だから出直せといふのだ、その出直せといふキッカケが二つも三つもあるのに、國家民人はまだねむつてゐる、やんぬるかな。（一月九日）

×

年よりといふものはいたはつてやらなければならないものなのである、電車でも、としよりがくれば席をゆづつてやるのである。

こんど内閣を組織した清浦奎吾さんは七十五にもなる年よりなのである、あまりいぢめない方がいゝのである。

×

むかし、棄老國では、としよりをすてたといふのである、日本では、そのすてられた老人がひろひあげられて、しかも内閣を組織する、おめでたいわけだが。

もし清浦老にして、七十五でなく、七十七でゝもあつたら、喜の字内閣とでもいつて、一層のおめでたさを發揮すべきであらうに。

×

東北大學の醫學部がやけた、よく學校が燒けることだ、社會のたが、時代のたが、政治のたが、教育のたが、皆ゆるんでゐる。

×

清浦内閣彈劾演說といふのをやつてゐる、彈劾するも、はり合ひがないようなものだが、かういふ連中の顏觸をみると、いつも、判コでおしたやうに、おなじ連中なの

も妙だ。

彈劾常習者、煽動常習者、これといふきまつた仕事もなくつて、なんぞといふとさはぎだす連中、こんなのが實は一番始末がわるい。

×

湯淺倉平氏、警視廳を去るにのぞんで、

「七年ほど官界を去つてゐたので大分うつかりしてゐたところがあつた……あとから〳〵追はれがちであつた」と、そういふ不適任者をわざ〳〵引つぱりだすのが、いはゆる政界の情弊だ。

×

こんなドサクサまぎれにでも、大臣になつておかなければ、二度と再び大臣になる機會はない、いろ〳〵椅子がグラついても、あれをやめさしては可愛相だから、といふような情けない大臣がある。

これまた不適任者なること申すまでもない、まことに政界の情弊つくるところを知らず。

×

大臣といふ大臣、みな口をそろへて、「既定計畫は變更せぬ」或は、「外交に新奇なし」といふ、變更するにもしないにも、既定計畫なるものがよくわからない大臣がおほからう。

怪我があつてもいけないから、なまじ手出しをせず、政務は次官以下にまかせておくが、上策だ。（一月十日）

×

清浦新總理「不自然なる多數」とウツカリ口をすべらし、秘書官いそいで辯明、何分目下スケートの季節である、とかくはすべりがちな事と、何ごとも御勘辨をねがひたい。

加ふるに七十五歳の老齡、足もとがあぶないのである、とかくころびがちなことゝ御承知をねがひたい。

×

入閣を辭退して自分の椅子を他人にまわした大木伯は、それで男をあげたといふことである、世も末になると、男のあげかたもいろいろなことになつてくる。

この人々大臣になるといふことを、ほめられたり褒美をもらつたりすることゝでも考へてゐるのだらう。

×

とかく問題の世の中だ、それからそれへと問題ができる、かはりあひましてかはりばへのせぬ中にも、時には、閣員過剰問題といふようなお茶うけがはりにもつてこいといふ珍奇な問題なども發生して、大向ふを笑はせる。

たまには笑ひたい、かう毎日憤慨したり、呆れたりばかりしてゐてはやりきれたものではない、笑ふのはくすりだ、だれでも笑ひたい。

これすなはち、曾我の家五郎一座が晝夜二回大入滿員のよつて來る理由である。

×

孫文が吳佩孚を討伐するそうである、尤もこれは討伐の聲明だけにとゞまるものだらう、聲明はたゞでいゝけど、實際討伐をしようといふには、なか〳〵費用がかゝるから。

×

清浦新總理は「選擧の公正を期し、政黨を健全ならしめ、もつて立憲政治有終の美

をなさしめんと思ふ」と聲明した。

その抱負の廣大なこと、これが七十五歳の老人の言葉とはおもへないほどだ。

それだのに、一方では、「清浦内閣の壽命は今春五月」だなどと、けしからぬ推測をするやからがある。

いやしくも、政黨を健全ならしめ、立憲政治有終の美をなそうといふものに對して五月限りの壽命とは、勿體至極もないいひ方ではあるまいか。

×

浪人してゐるとのんきで、役人になると苦勞するといひながら、だれもかれも、皆役につきたがる。

とにかく苦勞がしてみたいのであらう、結構な心がけである。

×

支那人誤殺事件の調査で來朝したと、新聞紙が書きたてた王正廷は、北京へかへつたのち、その隨員をして、日本行きの目的は對露問題のためだと聲明させてゐる、誤殺問題にはあまりふれなかつたといつてゐる。

王正廷はうまく日本の新聞屋を利用した、いかな新聞屋も、王正廷を利用はしたが

結局澤山利用されてしまつた。（一月十一日）

×

清浦内閣は、すべてにおいて人選をあやまつてゐるといふことである、曰く何、曰く何、と。

そのくせ、この内閣位、一つの職について幾人もの人をあてはめた内閣はない、一例をあげると、警視總監は、最初なにがし、その次何がし、警保局長も、某、某、某と、たとへば勸業債券を三つもかつたら、そのうちどれかゞあたるだらうといふやうなあんばいだ。その用意周到驚くべしだが、

それでもなを人選をあやまつたとあつては、もはや人爲のいかんともすべからざる次第でもござらうか。

×

普選で大分やかましい筈であるのに、新任の内務大臣は「普選については何も考へてない」と涼しそうな顔をする、したのが馬鹿か、されたのが馬鹿か。

曰く、ポチ〳〵。

×

佛の顔も三度、今度は突擊すると、憲政會の幹部がいふ、幹部、今までは佛の顔のつもりでゐたのである。笑はせる。

×

新警保局長の藤沼氏の談として、新聞の傳ふるところによれば、

「此間の不敬事件だつて、殆ど不可抗力のごとき突發事件に對して、幹部全部が懲戒免職になるなんて、官吏もつらいものさ」

とある、辛いかつらくないかは別な問題だが、此間の大不祥事は、けつして不可抗的なものではない、もし政府當路の人にして、これを不可抗力と考へるならば、それは言語同斷な考へである、

藤沼君はその次に、

「人事を盡すも尙足らぬものと、努力に努力を重ね、十分の注意を要するものである」

といつてゐるが、不可抗力といふ先入主がある以上、その人事は決して完全に盡さるべきものではない、どうせこの土手は切れるのだが、そういつてもゐられないからまア警戒しようといふような腹でやられてはたまらない。

此間の大不祥事件は、天災でもなければ地天でもない、明かに人爲である、新警保局長の言にしてもし事實ならば、それこそまことに戰慄にあたひする言葉である。

×

犬養尾崎が陣頭に立つて、特權内閣の打破をやるそうである。犬養老としてはいかにもくやしからう、尤だ、せい〳〵打破しなさい、打破してさへおけば、いつかまた遞信大臣になれまいものでもない、ものはためしだ。

×

水野内相が、大廟參拜に出發するとき、見送りの誰かが、「人心安定の前兆萬歲」と叫んだそうである、いろ〳〵こみ入つた萬歲が今後できることであらう。

×

總裁の決意は「隱退」でないと小川政友總務が辯解した、政治家といふものは、とかく手數のかゝるもので、その一言一語はみな註釋を要するのである、清浦首相の、「不自然なる多數」が、政友會を指すものでない樣に、高橋總裁の決意も「隱退」ではないのである。(一月十二日)

×

大阪では朝鮮人の保護指導を全ふするつもりから、一般巡査に朝鮮語を二ヶ月半ならはせるそうである。

二ヶ月半で保護指導にあたらせようとする大阪府當局の覺悟は悲壯である。

×

災後の東京の建築は、だん〳〵美的になつてくるそうである、その美的といふ中には、隨分鼻もちのならないのもある、が、なんといつてもバラック的氣分が、一種輕快な感じを與へるために、少々趣向をめぐらしたところはいかにも若々しく感じられるのである。

燒けのこつたといふことは、しあはせのようではあるが、バラックの町にくらべると、キタなくッて、くらくッて、いかにもさびしいのである。

×

驛の助役が、十六年といふ長い間、孜々として、おのれの擔當倉庫から、米醬油の日用品を窃取してゐた、十六年といふ長い間。

助役の惡をせめるより、十六年も發見しえなかつた迂濶さにおどろく。

×

アメリカの新聞記者が、震災當時の日本について、政府當局の處置を猛烈に攻撃してゐる、だいぶ虚報があるやうだ。

世界における排日の運動は、手をかへしなをかへ、だん〳〵複雜になつてゆく、日本政府が、それに對して適當の宣傳機關をもたないことは非常な遺憾である。

日本の統治は、日本内治の事だけではすまなくなる、日本の内部がすぐ歐米へ反射し反響する、それを注意しなければなるまい。

×

支那の議會では、とう〳〵孫総理の同意案が通過した、高総理の居すはり魂膽もつひに効なく、院内の電氣をけしてしまつて、眞ッ暗な中でさはぎたてたが、孫は眞ッ暗な中に頑張り、とう〳〵電氣をつけさせて、勝をしめた。

電氣さへ消せば、高内閣はゐすはれるとでもおもつたのか、支那だけにそこが珍。

×

赤いロシアは氣息奄々としてゐるが、その旗風は英國あたりをも大分なびかせてきた。

こゝ二三年ののちにおける、世界の混亂は想像のほかだ。

×

犬養木堂は、二度大臣になつたが、その在職日數は百三十一日だそうである、わづかといへばわづかだが、しかし地下の光秀をして羨望せしむるに足る。

×

支那の治外法權撤廢について、歐洲の列强は拒絶の意向をもつてゐるようだ、米國が、撤廢會議各國代表の任命請求の通牒に對しての佛國の回答中に、米國が華府會議で、支那の力量を信頼しすぎたかたむきがあるといふことは、歐洲列國政府の輿論であると喝破したのは痛快である。

しかし、歐洲自身も少しは反省すべきである、支那に起つた最近一二の事件で、たちまちにその態度をかへるといふことは、彼等が、支那に對してあせりすぎるからである。（一月十三日）

×

特權内閣の成立は、國民に對する挑戰だと、憲政會の人はいつてるが、挑戰だとしたら、むしろ、政黨に對する挑戰だらう。

×

英國の資本家と支那のある會社との間に鐵道契約ができた、三線ある、中にも石峰天洋間の鐵道の如きは、將來尤も重要なものとして、支那北部における英國の勢力のために大きな寄與をすることになるだらう。

×

臺灣でうまれた日本人のある私生兒が、うまれるとすぐ里子にやられて、それから賣られうられて、あるところの養子になつて、いつか臺灣人になつてしまつた、それが徴兵令違反者としての召喚狀をうけることになつて、はじめて自分の身許がわかつてよろこんだといふ、不思議な運命の人もあればあるものだ。

×

國民總動員で清浦内閣を倒せとはなんだ、そんな事位で國民が總動員をやつてたまるものか。

特權内閣が總動員にあたひするといふのなら、政黨の利權内閣などは、勿論國民の總動員で打ち倒さなければなるまい。

國民總動員といふことは、清浦内閣などに對してすべきことではない、大不祥事の發生防止について、國家の大反省を促すような場合にいふのである。

×

政黨といふ政黨、一齊に内閣倒壞にむかつて、邁進してゐるといふことである、いはゆる政黨といふものゝ仕事としては、まづここいらが關の山だ。

それでも内閣のたふれないところがおなぐさみ。

×

上野公園が、いよ／＼市に下附される、市はこれに對して適當な維持方法を講じてもらひたい、あのヘンな自治會館のようなものをやたらにたてられると困る。

×

上野公園の木は徹底的に保護してもらひたい、震火災で、東京中の木がかなりやけた、上野公園第一の老木も折れた、公園のバラックは、かなり樹木に累をなしてゐるようだ、市の注意をのぞむ。

×

人事相談所にもちこむ夫婦喧嘩がへつたといふことだ、復興氣分に夫婦喧嘩でもゐるまいといふわけだそうだが。

それと反對に、町中での喧嘩はふえたようだ、これは復興氣分のおかげだ、おなじ

復興氣分でも、一方はへり、一方はふえる。

家内が平和で、町も平和なら、それがホントの復興氣分だ。

×

成績がおもはしくないから、退學させろと、校長からいはれて、困つてゐる人がある。

今の教育といふものはよほど變なものである。（一月十五日）

×

强力電波の空中放送で、飛行機が飛べなくなるといふ。

友人のある科學者は、無線電信がさかんになると、地上の人間に惡影響があるかも知れないと憂へてゐる。

却てまたいゝ結果をもたらすかも知れないとも考へられる。

とにかく大きな問題だ。

×

「日本は危い」と大きな廣告をだした人間がある、なにが危いのかとおもふと、清浦内閣が出現したからだと。

清浦内閣の成立は、沙汰の限りだ、馬鹿〳〵しさの行止りだといへばそれまでのことだ。

日本が危いなどと、清浦内閣位なことで、そんな馬鹿なことはいふものではない。

×

社會主義者が、入營の宣誓を拒んだ、陸軍では困つてゐるらしい、困ることはないドシ〳〵處分するがいゝ。

×

貴族院の自發的改革は絶望だといふことが漸くわかつたそうである、わかりかたがすこしおそすぎるのである。

この次よほどたつてからこんどはまた、既成政黨といふものゝいかにも下らないといふことが、自發的にわかるようになるだらう。

なにも經驗なのである。

×

武富時敏氏は、元老はいまだに五十年前の夢をみてゐると斷言したが、政黨がなんねん前の夢をみてゐるかは、斷言せずに、たゞ默つてゐた。

この沈默が、金であるか、銀であるか、赤銅であるか、四分一であるか、これは大きな研究問題だといふことである。

×

日本の勞働代表は、勞露を視察して、勞露は整頓して、充實せりとの報をもたらした。

ある人は整頓とみ、ある人は充實とみ、ある人はレーニン病み、トロツキー病みて四分五裂とみる、いづれも楯の半面だ。まとめてみる必要がある。

×

孫文は、支那統一會議の開催について、有力な運動を起してゐるといふことだが、いつまでやつてもどこまでいつても、これは出來ない相談だ。

支那は、一個の、非常に忍らい人間がでて統一するのでなければ、どうしても統一のできない國である、今日のやうなドングリのせいくらべのような小さな人物ばかりでは、支那は前途遼遠なのである。

その前途遼遠は、孫文においてもつともよく代表される。（一月十六日）

×

この頃のお天氣には、面白い癖があるそうだ、たぶん雨になるだらうとおもふと、それが六日目ごとに持ちなをすので、其たびごとに面くらふのは豫報學者。

世がわるくなると、お天氣までなか〳〵一筋縄ではいかぬ。

×

日本の百圓がアメリカで四十四ドル二分の一に下落した、これはなんのためか。

とにかくこれが、恐らく最低の新記錄だらうといふことだ。

×

鐵道の不正乘客がたいへんふえたそうである、鐵道當局は、「列車電車の混雜が、この犯罪を助長した」といふ。

そうおもつたら、その混雜を緩和する方法をとることが、もつとも聰明な考へなのである。

×

この頃の西園寺公望氏は、政友會のある部面からもいやがられてゐるそうである。

すなはちいまの西園寺氏は國民衆怨の的だといふのである、心配したりわるくいはれたり、長イキはしたくないものである。

×

清浦氏が、各政黨の幹部を招待して御馳走をするといふのに、大分ことはる連中がある。

御馳走されたからつて、ナニも清浦内閣を援助しなければならないといふわけではあるまい、アマリ量見が小さすぎる。

×

勞露では、日本研究の機關が新設されたそうである、今ごろ日本研究部を設けるといふのも、隨分ノロマな話だが。

一たい日本にはシッカリした勞露研究部があるのかないのか、ただ一般的な國際關係にすぎない間柄でも、先方の事情をよく知つておかなければならないのに。

勞露が、なにをもつて日本にのぞまんとし、いかなる方法で臨まんとするかは、實に重大な問題であるのに、充實徹底したその機關のあることをきかないのは、頗る遺憾である。

陸海軍、實業方面、どれをみても、ロシア通といふのは、數へるほどしかない、心細いことだ。

×

白人濠洲は、濠洲の發達を阻害するものだと、英國人もようやく氣がついた、尤もまだ氣がつかないようなら、よほどどうかしてゐる。

最近の濠洲なるものに、殆ど發達のあとといふものがないではないか。

×

支那の孫内閣は、直隷三派がおの〳〵その人材をいれて、一見安定したやうではあるが、保定派の閣員が多すぎる結果は、いづれまた一もめあることだらう。

天津派の反對もさることながら洛陽派の吳佩孚も、一人の顏惠慶をして自己を代表させるだけではなか〳〵滿足しまい。(一月十八日)

×

そうグズ〳〵いふなら解散だ、と、一つおどかしつけてみた、政友村民、どんな顏をするか。

×

大臣もゆき、殿樣もゆき、政黨員もゆき、したがつて新聞屋もゆき、興津の西園寺にましますいなり大明神こゝもと大繁昌である、このおいなりさま、願ひごと何でも

かなふ。

いまに、厄よけ開運、一切におまもりがでる筈。

たゞしこのおいなりさま、のどがわるくて始終セキがでる、だからセキにはきかないそうだ。

×

東京のバラックは、中にかなりゼイタクなものもあつて、総じてきれいだが、横濱のある部分のバラックには、一區劃あるひはそれ以上、全部が燒けた鐵板でつくられてゐるところなぞがある。

東京には、もう震災當時のおもかげはないが、横濱はまだあまりにありすぎる。

×

御慶事の前に、いかゞはしい人物を檢束する、何か事がある時には檢束しなければならない人間、そうして、檢束しようとおもへばできる人間を、そのまゝ社會にはなしておくのだから、危險この上もない。

それで思想の惡化がどうでかうでといふのだから、わけがわからない。

×

こんどの内閣は、支離滅裂な内閣だそうである、ところでと、その支離滅裂な内閣をたふすために政黨が聯合した、これで政黨だけは、漸く支離滅裂を、まぬがれたつもりらしい。

×

震災で燒けた東京の寺院が、帝都寺院復興會を起して、寺院の復興をはかるといふことだが。

これを機會として、今まで葬祭本位であつた寺院を、これからは教化本位にするといふことである。

これからは教化本位にするもおかしいが、とにかく結構なことだ、これをイケないといふ人間は、恐らく世に一人もなからう。

×

御慶事の紀念として、三大圖書館を市内に新設するといふ計劃があるようだが、三大圖書館よりも、上野の圖書館に全力をそゝいで、日本唯一の、そうして東洋第一の大圖書館を建設してもらひたい。

今の、上野の圖書館など、實に貧弱で、諸外國に對してはづかしいといふような体

面論は別としても、實際用にたりない、受驗生に利用される位が關の山で、すこし小面倒な調査などとてもできない、一例をあげれば、藝術方面の書籍など、まことにとぼしいようだ。

×

御慶事で、清浦総理大臣が、子爵から伯爵になるかもしれないといふうはさがあるが、清浦氏が陞爵の理由など、どこにもみいだせない。

×

地震保險國營業を提唱する人がある、單に地震ばかりでない、火災も運送も、すべて、國營にうつさなければ、保險としての本當の効果はない。（一月十九日）

×

日評子、滿州へ旅行のため、しばらく御無沙汰した、旅行は僅か二十餘日の事にすぎないが、その間の政界の變化といふものはお話にならないほどはげしい、ひとり日本ばかりでなく、英國において然り、米國において然り、ロシアにおいて然り、どこもかも、然りである。すなはち行李をとくのいとまなく、日評の筆をつぐ。

×

レーニンが死んだ、大變ほめられてゐる、ウキルソンが死んだ、これも大へんほめられてゐる。

失敗した人ほどたくさんほめられてゐる。

ほめられたい人間は失敗するに限る、たゞし適當の時機に死ななければならぬ。

×

ロイド・ジョージといへば、對獨媾和條約の時分など、まるで、政治の神樣のようにおもはれてゐたものだが、その政治の神樣も、媾和條約中、クレマンソーにだしぬかれて、米佛の秘密條約をむすんだことを、知らなかつたといふことが、此頃になつて一般の知るところとなつた。

澤山ある神樣の中には、どうかすると、かういふ不手際（ふてぎは）な神樣もある。

たゞし、日本にある憲政の神樣といふのはたぶん例外だらうといふことだ、尤も、例外にもいろいろある、これはどういふ例外だかといふと、つまり、箸にも棒にもかゝらないといふ意味での例外だらうといふこと。

×

火災保險の被保險者がおしよせる、火保の重役、おどろいてテーブルの下へもぐり

こむ、なぜもぐりこんだといふと、これは地震とまちがへたからで、どうしてもぐりこむ氣になつたのかといふと、火災保險はお手のものだが、生命保險はあいにく商賣ちがひだからだ。

×

地震のあるたびにウルサイのが震源地の問題、あすこだ、イヤあすこじやない、そんなことでもいつてたら、どうにかお茶がにごせるだらうといふ、つまり地震學者のテレ隱し。

×

大勢でおしかけて、大臣を玄關にひつぱりだすことが、どうやら一つの流行になりそうだ。

大臣もなれたもので、出ろといはれゝば、委細かしこまつて玄關にまかりでる、そこを新聞の寫眞班がレンズに入れる。

寫眞にうつツたところをみると、大臣といへども別に異彩をはなつわけではない、中には、取卷の方に大臣よりも立派な顏がある。

×

鐵道事故頻發、交通上の支障といふことが、今の日本をかたるべく、一番有力な材料である。

往來をあるく、レールの上をはしる、それさへ滿足にいつてゐないのだもの、そのほかは。

×

まツ先にロシアを承認するはずのイタリアが、マンマとロシアからあげつぼをくはされた。

貧乏人は一ばんつよい、横着ものが一番トクだ、が、將來のロシアは、この不誠意外交で、キツト手をやく。

ロシアに手を燒かせるのは、力を自覺した場合の日本の正義の外交だ。(二月十日)

×

「大地は震ふ」といふ本が出た、地震のあとで、大地は震ふ、なぞは適切すぎるほどの適切さだ。

×

朝鮮問題講演會も結構だが、問題が、いつも朝鮮人をあはれみ、ほめ、美點をのみ

あげ、いたはるだけの範圍にとゞまつては、ほんとに朝せん人を知る事ができないから、つまり朝せん人を教化する事ができない。

朝せん人をほんとに知らなければいけない、いゝ點とわるい點とを、きわめて公平にみなければいけない。

×

政友會も政友本黨も、原敬をダシにしてかつがうとする、原敬も災難だ、かつがれてもかつがればへがしない、みんな不肖な小供等だもの。

×

今更、ロシアに政變などは起らない、レニンが死なうと生きようと、今のロシアでは問題でない、生前かなり長い間、レニンはもう一種の廢人だつたんだから。

×

政友會關係の毒素と毒素が衝突した、衝突するのは汽車ばかりではないのである。毒素と毒素とが、なすり合ひをする、ぬるもの、必ず左官といふわけではないのである。

×

日本びいきといはれるバーネット大佐夫妻が歸米した、日本人の理解者はまだいゝとして、日本の恩人といはれては、バーネット夫妻もくすぐつたからう。

×

大名などの玄關へおしよせて、護憲がどうのかうのといふ、それで憲政が擁護されるといふ考のみじめさ。

世は、明白に末なのである。

×

臭いもの身知らず、政黨者を評するのに、この位適切なことばはない。

×

近く、共產黨事件が發表されるといふことだ、が、網の中の魚はどうやら逃げたらしいといふような噂もある。

大震災の時、みぎの關係者を一ところにあつめたために、かれらの間に巧みな申合はせができたとかいふことである。

もしほんとなら、今さらせめてもはじまらないようなものだが、官憲といふものは一たい何をしてゐるのか、どういふつもりでゐるのか、一つしんみりときいてみたい

ような氣がする。

×

警視廳や警保局から金をしぼりとつてゐる政治ゴロといふものが、日に二十人から四十人位あるそうだ。

なぜそういふものに金をやらなければならないのか、とる人間の横着さよりは、だす役人の心持がわからぬ、はやくやめてもらひたい。

×

めい〳〵たゞ一つの仕事についてのみ考へてゐる、ほかの仕事とのふり合ひを考へない、政黨は政黨だけ、勞働者は勞働者だけ、保險屋は保險屋だけ、被保險者は問題でない。

綜合を忘れた世界に何の繁榮があるか、統一と融合のない世界から、みごとな文明の發生しようはない。(二月十一日)

×

護憲團とかいふ連中、ある華族を訪問した、夫人が引見する

夫人「わたしがおじぎをしてゐるのに、なぜあなたがたはおじぎをしません」

護憲團タヂ〳〵としながら

護憲「華族と平民とは戰つてゐる、だからおじぎをしない」

この壯士ども、おじぎが挨拶であることを知らず、降參のしるしかなんぞのように思つてゐる、情ない連中だ。

昔々、上杉謙信といふ人は、おじぎどころか、鹽がないといふので敵に鹽を贈つたといふことだ。

お早う、今日は、さよなら、をさへいふことを知らない人間等に護られる憲政といふものこそまことに災難。

×

あてにならぬ選擧の公平、內相の腹黑(はらぐろ)と、方々(はうぼう)でやかましいことだが、いづれもみなおのれたちの實驗からきたことだらうから、まちがひはあるまい。

×

農務省の獨立が問題になつた、おぼれるものは藁でもつかむ、選擧混亂のこの際だなにもかも問題にしなければやまない政黨のあはれさ、一々それに尤もらしさうな理窟をつけるのだからたまらない。

×

ガンヂーはいふ、好んで騷擾は起さないと、おこせば、監獄へぶちこまれるからである。

ガンヂーだけに、いふ事の筋がとほつてゐる。

×

世間も知らなければ、人間も知らない、おまけに學校の生徒だからまだ何か習つてゐる女學生たちが、禁酒廢娼で熱辯をふるふといふのである。

回覽雜誌に書いてでもゐるんなら罪はないが、いかに無智な女學生でも、すこしは考へてくれなければ困る、きくものが、どれほど迷惑するかぐらゐなことは、いくらか知つてゐてもらひたい。

×

清浦首相が各宗教家を招待して、國民精神作興に關するなんとかをするといふことである。

首相一日の招待、一回の招待で、國民精神作興の相談がまとまれば、國家の慶幸實にこれにすぎぬ。

たゞ、首相が、國民精神の作興を宗教家になんとかするといふのは、國民精神の作興を、あげて宗教家に一任するといふのであるか、それとも、政府と協同してやらうといふのであるか、あるひはまた、政府が極力やるから宗教家も助勢してくれといふのであるか、それを明瞭にすることが必要だ。（二月十三日）

×

十八人の孤兒を自動車にのせて親をさがす、何といふいたましいことだらう、この記事をよんで涙がとまらぬ。

×

「集合壓迫國旗凌辱國民大會」といふヘンテコな大會がもよふされた、まさか、集合して壓迫する大會、そうして、國旗を凌辱する大會といふわけでもなからうが、とにかく判斷に苦しむ、もし判斷に苦しまない人があつたら、手をあげて見なさい。

×

「見へ透く命」と、清浦内閣の壽命を見へ透いたことにしてゐる、まさにそうに違ひない、「見へすく腹」が、政黨の腹であることはだれもいはぬ。

×

選擧についての各政黨の幹部にうかがひをたてると、そろひもそろつて、我黨が第一黨、と大氣焰である。

政黨の幹部などといふもの、存外罪のない人間であることが、これでわかる。

×

神田上水の開鑿者が贈位の恩命を蒙つた、神田上水だの多摩川上水だのといふものは、今からかんがへればまことに貴重なものであつた、こないだの大火に、もしもあの上水井戸がのこつてゐたなら、たとひ今の水道が斷水しても、消火には事をかゝなかつたらう。

東京市の水道ができあがつたからとて、井戸をうめさせて何ともおもはなかつた、政府者の短見をかなしむ。

贈位のことをうけたまはつて、ことにこの感を新たにする。

×

國家現在の混亂憂ふるに足らず、といふ人がある、混亂に對して何の方策をもたてずに、漫然と、そんなことを新聞にかいてゐる。

そんな人のあることが一番憂ふべきことなのである。

×

日本の勞働運動は右傾化しつゝあるそうである、左になつたり右になつたり、損得勘定や感情の冷熱で、御都合次第、どつちにでも傾く。

×

新聞をみると、選擧の事が七分どほりだ、およそ選擧のことゝいへば、どれをみても不公明なことばかりだ。

それをよくもこんなに澤山書きあげたかとおもふと、腹がたつようだ。

×

政黨の無力から清浦內閣ができたと、水野內相がいふ、ほかの事はとにかく、これだけは事實疑ひなし。

たゝきこはされる筈の內閣が、まだたゝきつぶされないのだから、いよいよもつてこの無力、疑ひなき事實證なり。

×

一人の人に力がない、一箇の團體に力がない、たゞガヤ〳〵あつまつたところに力があるとおもつてゐる、統一のない力、基準のない力、そんなものに左右されて、空

な決議などする大會などといふものを、もつともなことゝおもつてゐる、この妄を破らなければならぬ。（二月十四日）

×

研究會へ拔劍の一團があばれこんだ、わるいには違ひないが、道樂や芝居氣でやれることじやない、殿樣少し考へろと新聞がいふ、つまりあばれこんだものゝ方に理由があるといふのであらう。

そういはれて、殿樣考へこんだかどうか知らぬ、日評子が考へには、研究會などにあばれこむといふこと、土臺こけの骨頂だ、なんだ下らない、と、これで澤山だ。

×

「勇敢な騎馬巡査」といふ新聞の見だしだから何だと思ふと、通行人を馬蹄にかけていつてしまつたといふのだ、巡査の辯解は馬があばれたのを制止できないからといふ何にせよ、「勇敢な騎馬巡査」はおだやかでない、衆愚の心を煽つて、そうして人をおとし入れようといふいやしい態度だ、それが新聞だ。

×

横川省三沖禎介の兩氏が贈位の恩命をうけた、ハルビン郊外朔風吹きすさむ零下三

四十度の寒天に行はれる、奉告式の光景をおもふて感慨なきを得ない。

ハルビン在留の我同胞に寄語す、帝國勢範の北端における國威の伸張については、憂ふべきものまことにおほし、今天恩枯骨に及ぶ、皇威德光北に流るゝ時、我同胞の蹶起して、國家のために奮鬪努力するの決意をかためられんことをのぞむ。

×

日本間に座蒲團をしいて、その上へ洋裝の女が、ボンネットをかぶつてゐる、ボンネットをつけるのが正裝であるのないのといふ必要はない、ズングリムックリした女が、丸くなつてボンネットをかぶつたまゝ、火鉢にあたつてゐる恰好は、けつしていゝものではないことを、注意しておく。

それをいゝ氣で寫眞にとらせて、新聞にだされてゐるなど、イヤハヤ言語道斷。

×

清浦首相の地方長官會議での訓示は、穩健着實選擧公正、の八字である、いふ人はいふだけ、きく人はきくだけ、たゞそれだけのことで、そのほかに大した意味のないのが、政治家のことばなのである。

×

選擧を公正にするといつてみたところが、だれもそんな事を信ずるものはない、信ずるものがないのにいつてみたところがつまらない話だ。

それよりは、どうしても動きのとれないところを一ついつておいたらどうだ。

國體的無自覺な政府者にはそれがいへないのだ。

×

政府はよろしく政黨の弱點を赤裸々に摘發すべし。

政黨あるを知つて國家あることを知らないのが現在の政黨である、國家の直接責任にたつ政府が、この點において政黨者の反省をもとめないのは、なんといふ不まじめさだ。（二月十五日）

×

英國政府が、世界改造を目的に、新國際會議を招集しようともくろんでゐるそうだいつもながら歐米政治家の考への愚にもつかないこと、そうして自己を增大するべくゐけめのないこと、感心と嘲笑と、このところまさに半々。

×

世界改造もかう度々やられてはいかにも安つぽい、そのやすつぽいことに氣がつかないわけでもなからうが、とかくあせり氣味の世界は、大國の政治的首腦に、こんな考へをおこさせるものとみへる。

世界改造の聲が、ほんとうの響をおこすのは、もう二三十年ものちのことだ。

×

高橋政友を仙臺から立候補させたいといふので、血判した神文誓紙を高橋君に送つたそうだ、廣い世の中だけに、安つぽい血もあればある。

×

新らしい女どもがよつて、女代議士の模擬選擧といふのをやるそうである。

新らしい女でも、女はやはり女である、まゝごとがしてみたいのである。

×

杉田定一翁の話によると、興津の元老、西園寺公望氏は、存外新らしい思想をもつてゐるそうである。もし杉田定一氏が青年であるとすると、この話はよくわかるわけだが、西園寺氏と大して違はない老翁たる杉田定一氏において、新しい思想とはそも〳〵何であるか、これは問題である。

×

狂人が大へんふえたそうだ、狂人の多いといふことが、この時代を思はせるべく、尤もいたましい、しかしながらあらそへない事實である。

狂人と見られないで、狂人とひとしいものがおほいことは、なをさらにいたましい事實である。

×

警察よりは憲兵の方が、民衆から信頼されるといふ傾向がある、軍隊を警察にすることが、一番面倒がなくて、一番効がおほいのである。

×

めづらしく各大臣が、われもわれもと訓示した、この内閣限り、二度と大臣になれない人がだいぶあるからだ。

一世一代の訓示だ、がまんしてきくさ。

×

廢娼論者の立候補に對しては婦人嬌風會で十二分の後援をするそうである、希望者はないか。

勿論、當選後における思想の變化、はどうすることもできないわけであらう。

×

長官會議では、内相がだいぶ煙たがられてゐる、内相は事務に練達の人だ、内務畠の事はスミからスミまで知つてゐる、事務家としては無類だが、政治家としてはそれでは困る。(二月十六日)

×

大谷光端は、支那の排日は、政治問題でなく、經濟問題だといふが、違ふ。

經濟問題であり、政治問題であり、將來はまた思想問題にもなるのだ。

×

靖國神社の中で救世軍が宣傳するのは、神威を冒瀆するものだといふ附近居住民の意志に對して、救世軍側では冒瀆じやないと、スツタモンダのあげく、警視廳の調停で、救世軍側は神威冒瀆を是認してケリがついた。

國の爲めに戰つて死んだ英靈に對して、非戰論のヤソ教宣傳は、勿論冒瀆にあたひしやう。

×

警察へ拘留されてゐるうちに死んだ人間に對して、拷問、殺害などの評判が大層や

かましくなつてきた。

新聞が精探の結果、その疑ひ十分で書くんならいゝが、さもなければ人さはがせだそうして、警察に對する民衆の信頼をいよ〳〵うすくすることにもなる、それは治安の上にうれふべき事である。

×

新聞に、「久邇宮の行啓」とかいてあつた、行啓といふのは、皇太后とか、皇后とか東宮とかの場合にのみつかはれる筈の言葉である、恐らく一般の皇族につかふべき言葉ではなからう。

この頃の新聞には、總じてかふいふヘンテコなまちがつた言葉づかひがおほい。

×

カラハンは蒙古を支那から獨立させようとして奔走してゐる。

勞露の政治家について尤も感心する點は、その手腕でもなく、識見でもなく、政治家としての活躍にある。

今後の世界に多くの問題を提出するのは、ヤハリ勞露の政治家だらう。

×

「中學の增設は私學の壓迫」だと、だいぶやかましいことであるが、私學はなぜ壓迫してはいけないのか、私學は營業だから、といふのか。

×

劇術座といふ新劇團ができた、發音上非常に不利な名である、尤も、それをうまく發音するのが劇術だといふ謎かもしれぬ。

×

飲酒制限法案といふものが來議會に提出されるといふことだ、罪人をふやす算段にいそがしいことである。

×

鐵道犯人の處刑については、今後、場合によつて重科に處することになるそうだ、時としては死刑をさへ科するといふ。

これは必要なことだ、總じて、刑罰については、非常な改正を加へなければならないことが多い、罰金刑はどこまでいつても、罰金刑だからといふので、平氣で犯罪をする。

こんなのは、たゞ惡いことをするといふ樣な輕い意味のものではない、法律を無視

するのである、法律を蹂躙するのである、知りつゝ法を犯すといふことは、罪として非常におもいことだ、こんなのはやはり死刑にしなければいけない。

それと同じ様に、一見微罪かのごとくおもはれるものにも、時として死刑を科さなければならないこともある。

頻發する鐵道事故などに對してもやはりそうだ。(二月十七日)

×

この頃の新聞をみると、巡査に關した記事が非常におほい、その多くは大てい巡査にとつて不利なのである、巡査が惡化したのか、それもあらう、民衆が、官僚に對する反感から、巡査を、官僚のごく手近なものとして、これに反感を傾注するのか、それもあらう。

融和とか協力とかいひながら、社會は、たゞ反撥してゐる。

×

火災保險の被保險者の、保險金請求の運動が、だん〳〵猛烈になつてくる。

道を求め、眞理を探求するものが、みんなこのコツでやつたら、わけなく眞理が得られそうにもおもふ。

×

杉浦重剛氏が死んで、世人はみなこれを惜しんでゐる、しかも、その、生涯をつらぬいた至誠の人であつたといふことを一番惜しんでゐる。

してみると、至誠といふことのいゝことだといふ位な事はわかつてゐるのである、それでゐて此頃の樣に至誠の缺乏してゐる時代は、日本の歴史から前例をみいだすに苦しむほどだ。

もつとも、缺乏してゐる位だから、めづらしいのだ、といへばそれまでだが。

×

勝田大藏の辨明によつて、募債の高利の理由がわかつた、地震後、日本經濟界の將來の見こみがないといふのが、英米經濟界の聲だとすると、利廻り七分もしかたがないい樣にはおもふが、

しかしそれでは、いけないからいけないといふ迄の話であつて、折衝について格別苦心のあとといふものがみへない。

脊に腹はかへられないといふ意味での募債とあればそれも仕方がないが、しかし、そこが腕のみせどころではなからうか。

×

有權者は申告しろといふ區役所からのお達しだ、お達しならお達しらしく小使さんがくばるか、そうでなければ、責任的に必ず行わたり、必ず知る樣な方法をとらなければならないのに、無責任きはまる「廣告郵便」なぞで、申告しろといつたところが五日間位の日數ではそう几帳面にはゆくまい。

と、いつてるうちに日限がきて、さて書きあげてみると、日本橋八千餘(震災前)に對して僅かに三千四百、半數にも達しない、でも、これなぞはまだいゝ方で、ほとんどお話にならない區がある。

もし區役所が、當方の不注意でスッカリ帳簿を燒いてしまつて、調査ができないから、面倒だが申告してくれとでもやさしくでたら、見込數と大差ない申告者があつたかも知れない。

×

吳佩孚がカントン攻擊の計畫をたてた、實力からいつたら孫文は勿論吳の敵ではない、たゞ支那では、實力が實力にならないところにおもしろみがある。

理想家で、空論家で、ヘナ〳〵の孫文が、ともかくも盛名を持して、戰爭するたびにまけても、どうやらまだ餘勢をたもつてゐる、もつとも、國のひろいことも一の原因で、戰爭をしても長追ひはできない、だから、吳がカントンをうつも、計畫だけではなかからうか。(二月十九日)

×

マクドナルドが、世界改造會議をはじめるとかはじめないとかいふことだが、もしやるとすれば、軍縮がまた問題になるだらう。

フランスの飛行機は英國の頭痛の種だ、だから、空軍制限は英國としてはいひだしさうなことだ、しかし、どこもかしこも、こんなあんばいに手前の都合のいゝ樣にばかり考へてゐては、結局軍縮の理想は實行される時がない。

飛行機がどうの、軍艦がどうのといつて、それが軍縮だなんだといふよりは、もつと簡單な方法は、戰爭條規をつくつて、戰時に使用すべき武器を限定してしまふ方が理想的だ、そうしたら文句がなくつてよからう。

一例をあげれば、協定によつて、毒瓦斯などはぜん〳〵使はないことにするのだ、飛行機もまたつかはないことにする、勿論潛航艇もだ、そうして銃、機關銃、大砲ぐらゐの範圍で戰爭する、運用で勝つ、智慧で勝つ、器量一杯の戰爭ができる、毒瓦斯

の如き不可抗的なものでないから、まけたものもあきらめる事ができる、下らない恐怖がはぶかれる、そうすれば、軍縮としてもかなり要領をえたものができる。

×

大毎東日主催の日本美術展覽會をみにいつて、日本畫といふものにスッカリ愛想をつかしてきた、油繪のような日本畫が澤山ある、あるのはいゝとして、油繪だか油繪でないのだか不明瞭きはまるにいたつては、なんとも挨拶のしようがない。

すべてがぼんやりして何が何だかわからない畫や、油繪具をねらつてその効果をぜん〳〵だしえない繪や、ぬらりくらりとした線の、繪畫だか模様だか分らないような物を、今日何の必要があつてみなければならないか、そんなものが百七十四點もあるといふに至つては、日本畫家といふものゝヅウ〳〵しさに驚かざるをえない。

觀覽の日、あだかも日曜であつて、薯をあらう様な見物人の雜踏、畫もなにもあつものではない。

日本畫ももうほとんどだめだ、ヂリ〳〵ヂリ〳〵と洋畫に壓迫されてゐる。

×

ロシアが蒙古をおのれのものにしようといふのは、つまり、東支鐵道と天秤にかけてゐるので、東支をよこさないなら、蒙古を、といふのがロシアの腹だといふことである。

支那とロシアとの外交は、世界における横着外交の對立である、たゞその違ひは、支那は受け身だがロシアは受け身でない、ダカラうまく機先を制する、そのかはりヘタにひつかゝると、支那の爲に、トンデもない目にあふ。

支露の問題は今後ます〳〵かういふ外交的興味を濃厚にしてくる、おもしろいことだ、だが、日本の外交家が、この觀測について十分徹底した考へをもつてゐないと、とんでもない卷添へをくひ、あるひは鼻毛をぬかれる。

霞ヶ關の諸豪は十分警戒してもらひたい。

×

護憲三派の結束が堅いとか堅くないとか、堅いのがいゝのとか、堅くないのが惡いのとか、世評まち〳〵である、喜憂またまち〳〵ならざるをえない。

愚なるかな言やといひたい。

護憲といふも結束といふも、みな黨勢を擴張するための方便だもの、最後結局はわかれるのさ、つまり、どこまでもつかといふまでのことなのさ。（二月二十日）

×

檢事が、早稲田大學を臨檢して教授の研究室を捜索したとき、だいぶやかましい問題になつて、學問の獨立がどうのかうのとさはぎたてたものだが、共產黨事件の一件がきまつてみると、證據書類などは、一時、やはりその研究室にしまつてあつたことがわかつた。

學問の自由といふも、あるひは集會の自由といふも、また、言論の自由といふも、いづれもみな、治安をみださない程度での自由であることはいふまでもない。

國家の治安をみださんとするところに、國家のみとめた自由はない、大學の教授だらうが、教授の研究室だらうが、そんなことは問題でない。

研究室臨檢の當時、激怒したといふ高田早大學長も、今となつては激怒したことを後悔してゐるだらう、それといふのも、いつも、學問と國家を切離して考へてゐる弊の結果である。

さきの激怒は、今の恐縮、早稲田大學當局は、よろしく、その不明を天下に謝すべきである。

×

護憲示威運動の行列がとほると、丁度通りすがつた外人が自動車からおりてバンザーイといつたといふことだ、つれの夫人も、また美しい令嬢も。

すると、行列の民衆は、この外人をとりまいて、「萬歲〳〵」と 狂喜のやうに叫んだといふことだ。

おせつかいな外人もあればあつたものだが、それを取り圍んで狂喜したといふに至つて、護憲運動といふものは、一たい何のための運動なのだ。

護憲運動といふものが、かりに意義のあるものとしたところが、外人がこれに參加するの必要はない、隨つて、參加され好意を表されて喜ぶ必要もない。

護憲運動といふのは、ぜんたい何のための運動なのだ。

×

われ〳〵を目して、政府におもねり官僚に迎合するものとなすものがある、そういふ人たちの血のめぐりのわるいのに驚かざるをえない。

大體、ふけばとぶ樣な政府といふものを、我れ〳〵は眼中においてやしない、だから、そんなものに阿諛する必要もなければ迎合する必要もない。

隨つて、政府に對する言論については、そのよきをとりあしきを捨てる、どこまで

も公明正大だ、復興院についての後藤子の態度が悪ければそれを悪いといふ。

悪いものを悪いといひ、いゝものをいゝといふ、この位公明な態度はない、この公明な態度からみて、政黨といふものは、ワヤ〳〵さはぐばかりで一向に無力だから政黨は無力だといふ、無力なものを無力といふに何のさしつかえがある。

日評子は、故原敬をもつて、明治大正における尤も聰明な政治家とおもつたからその人物をほめてゐた、しかもなほ原敬の無理想と國體意識のないことについては、つねにこれを指彈してゐた。

ゑらい人間をゑらいといふにさしつかえはない、しかし、原敬なきのちの政友會はとるにたりない團體だから、すこしもほめない、それでももし、至誠があれば毫も推稱にはばからない。

われらは、日蓮主義の指導により、國體主義の信條によつて運動する、既成の世間的勢力など問題にもなにもならんのである。(二月二十一日)

×

松井外相が、地方官會議でロシアの事情をのべたに對して、カラハンが早速反駁した、その反駁の反駁を松井君がまたやつてゐる。

松井君にいはせれば、カラハンは大分誤解してゐる、誤解でも何でもかまはない、とにかく機會さへあれば、その機會を利用して、おのれに有利な宣傳をするのが、ロシア外交の特色だ。

先入見といふものはかなり力づよいものである、間違ひでもなんでも、とにかくしみこませておけば、それはなか〳〵ぬけない。

日本政府は、宣傳といふことをすこしもしない、たま〳〵すれば貯金の宣傳か、鐵道の宣傳ぐらゐなもので、外交上の宣傳などはかつてしたことがない。

すればいひわけぐらゐなもので、さていひわけとなると、いひわけといふものはどういふものか一向効きめがない。

×

こんどの外債について、またなんだかんだといろ〳〵な推測がある、それが、政友本黨の選擧費用になるといふことが、各政黨にとつて一番頭痛のたねだ。

×

その外債が高利だといふことについて、いろ〳〵な失敗談があるらしい、六分以上ならやめろといふ電報をうつたときは、もうむかふにゐた財務官が契約してしまつた

のちだといふ様な話がある。
役人なんていふものは、一たい何をしてゐるのだか、わざ〳〵失敗するためにでも存在してゐる様で、まことに妙なものだ。
それで、月給は人なみにとる、やりきれた話でない。

×

護憲、火保、農務省、御用黨、總選擧、國辱公債、丹那の慘事、長官會議、選擧干渉。事件はそれからそれへと起り、順々にきえてゆく、護憲もだんだん影がうすくなつた、農務省もその通り、次第に選擧干渉へと色彩が濃くなつていつて、またやがてうすくなる。
新聞といふものが、御都合で、いろ〳〵に色をぬる、讀者はそれを正直によむ。
一時的の、新聞のにぎはしが、正直な讀者にほんとらしくひゞいてくる、新聞といふものは罪なものだ。

×

英雄崇拜を提唱する人がチラホラ見へて來た、英雄を崇拜するもよし、英雄をつくるもよし、英雄的世界にするもよし、とにかく、あまりに平凡な世界に、私共はもう

あきてしまつた。
平凡は單調なんだ、單調な中から氣のきいたものはあまりできないんだ、それを、今までの社會はムリに單調なものをつくろうとしてゐたんだ、みんなの頭をならべようとしてゐたんだ。
その結果、今日のようなこんな下らない世界ができてしまつたんだ、それは主として教育者の罪だ、また、社會の先覺などといふものゝあやまつた意見からだ。
もう平凡な人間をつくるのをやめよう、英雄もでろ、天才もでろ、とにかく、ズバぬけた人間がでなければ、世はいつも下らなさをつづけてゆくにすぎない。
（二月二十二日）

×

金に困るところから、自動車にぶつかつて、怪我をして、治療代をせしめようと考へた、そうしてそれを實行して、全治一週間の傷をした、念の入つた馬鹿もあればあるものだ。

×

鐵道事故のもとをさがしてみると、警標が幽靈にみへるところから、ぬきとつて線

路上においたといふのや、
女にすてられてくやしまぎれのかへりみち、その腹いせに、ありあふ石を線路上においたといふのや、
わかつてみるとまことにタワイのない話ばかりである、馬鹿ほどこわいものはないといふが、まつたくそのとほりで、そのため世間がどれほど迷惑するかしれぬ。
しかも、こんな犯罪は日一日とふえてゆく、厄介な社會である。

×

八ッ當りのロシアは、遠慮會釋なくあばれまはつて、こんどは、日本の新聞記者にも退去を要求するといふことだ。
義理もなければ見得もないロシアのやりかたには、小供らしい幼稚さがある、同時に、ロシアらしいすねかたがある、嫌がらせがある。
そういふ態度に興味をもつことはできるが、しかし、ロシアとしてそれは長くさかえるみちではない、ことに日本の震災の罹災者に對する救濟事業を、實行困難のために打切るといふに至つては、拙の拙なるものだ。
尤も、英伊の承認以來、ロシアはいくらかいゝ氣になつてゐる邊もある、日本に對して特に挑戰的にでる傾向もあつての事だらうが、いさゝか兒戯に類するを、ロシア當局のために惜しむ。

×

罹災市民の不安をよそに、復興計畫の遲延は何事だと、金子樞密顧問が水野内相に突つこんだ。
震災後まさに半年、東京市のどこをみても、政府の復興的方針をも仕事をもみることができない、今ごろ政府の責任を問ふさへおそい、まして責任を問はれる方の政府のグヅサ加減に至つては、沙汰の限りである。

×

空中軍備の擴張よりは、國際關係の空氣を改良する方が、軍備縮少として適切であるとは、英國航空次官の意見である。
この意見が軍備縮少意見として適當であることはいふまでもない、しかし國際關係の空氣なるものが、どうすれば改良されるかといふことについては、歐米の政治家の一人も、かつてほんとうに考へたことはない。
いざとなれば、みな自國の利害が唯一の打算である、利害以上の問題を各國家が考

へる樣にならなければ、國際間のほんとの協定はできない。（二月二十三日）

×

丸の內界隈の大道に、やたらに靴直しができて、靴みがきをすゝめるのがうるさいそうだ。

しかし、ハルビンあたりのように、二三間か四五間の間隔で、靴みがき屋が店をならべてゐるのは、いかにも便利で心持のいゝものだが、習慣のせいかすこしもうるさいとはおもはぬ。

東京の樣にほこりの多いところには、ぜひ路傍の靴みがきがいるのだが。

×

清浦首相が、佛教各派、キリスト教各派、教化團體の各代表者を招待して意見をきいた。

東朝が、各代表者の意見を掲載するに際し、キリスト教代表者には、小崎弘道氏、植村正久氏といふ樣に一々氏をつけたが、教化團の方には、松村介石、後藤武夫、田中智學とよびつけだ。

松村介石氏も、もとの通りヤソ教であつたら、此の際氏の字の恩典にあづかるところであつたに、ヤソ教をやめたばかりに、松村介石とよびつけは、チトお氣の毒。

×

三黨首の乘つてゐた汽車のてんぷくを企てた事件について、官憲は、女にふられた男が、腹立まぎれに石を線路においたのだと發表したに對し。

報知新聞はそうでないといひ、考へればおかしなふしもあるといふ、ことに本件は衆議院を闇打的に解散した直接の原因だからと、だいぶこの事件をあやしいようにしてゐる。

そんな想像をされるようないやしい政府であるのか、柄のないところに柄をすげんとする新聞であるのか、えたいが知れぬ。

×

形勢わが黨に有利と、各政黨の人々、どこにも不利な點がないとすると、各政黨とも萬歳だ。

有利の結果が、どうなるかといふと、六百幾十人とかの議員ができるそうだ、できすぎて困るもの、電話の應募者と衆議院の議員だ。

こればかりは、數がきまつてゐてどうにもならぬ。

×

罹災避難民のために、小石川の植物園がほろびんとしてゐるそうだ、避難者を收容すべく、ひろいところはまだ外に幾らもあらうに、無考へのことだ。

名園でも何でも、非常の場合、一時開放しなければならないこともあらうが、どうかそれは一時的であつてもらひたい。

もし、バラックをなを繼續しなければならないのなら、富豪はよろしくその邸宅を公開せよ。

×

滿洲では、旅大回收についで、今度は安奉線回收運動がおこるそうである。

勿論、この不條理な問題が貫徹される筋合のものではないが、滿洲の排日が、こんなに次第に濃厚になりつゝあるに、滿洲にゐる日本人が一向に無力で、政府もまたしかとした態度に出られないことはいたましさの限りである。

どこまでいつてもこんなら、むしろ滿洲を放棄すべしだ、放棄するのがいやならもつと積極的に出て、張作霖を後援するなり、打擊するなり、しかるべき措置をとらなければなるまい。（二月二十四日）

×

國民思想の統一などできるものでない、できたとしたら、思想が沈滯腐爛する、思想は混亂によつてすゝみゆくものだ、といふことだ、尤も、新聞記者のいふことだから、あまりあてにはならない。

が、混亂が進歩だとは、とにかくよほどおめでたい頭だ、こんな人は、電車の混雜をみても、イヤ進歩だ、結構なことだといふかもしれない。

混亂といふことは、沈滯よりはよほどわるい狀態であることを考へなければいけない、混亂には方向がないのだ、混亂とはつまり妄動なのだ。

×

東宮の御西下について、沿道はまるで警官のトンネルだといふ、警官のトンネルでも、軍隊のトンネルでもいゝから、御恙なく御旅行あそばすように、つとめてもらひたい。

一人の馬鹿者はまだいゝ、ともすればそれに共鳴しそうな惡社會にあつては、絶對的な警戒をしなければならない、「さながら警官のトンネル」などゝ、嘲笑氣味の新聞さへあるのだから。

×

火保請求同盟會の請求に對して、農相が、極力援助すると聲明すると、押寄せた連中たちまち「脫帽々々」といふ、現金なことおびたゞしい。

この連中、金をくれない奴等には、どんな無禮をしてもかまはないとおもつてゐるのであらう。

×

大地震がくると學者がいふかとおもへば、こゝ三十年位は大地震はこないと、またしても學者がいふ。

世間はもう、學者などといふもののいふことなどに頓着してゐないといふことを、學者先生はまだ知らずにゐるのである。

「のんきなるものよ、汝の名は學者なり」といふ格言が、この頃どこかでできてるかも知れない。

×

帝國ホテルの何かの祝宴で、醫者がなぐり合ひをした、が、大したことはない、心配しなさるな、どつちも醫者なのだから、傷の手當などソリャあ心得たものだ。

×

日露正式の交渉をするとかしないとか、そんな事を餅についてゐる、政府の人も民間の人も、どうしてかう煮えきらないのかとあきれる次第だ。

グズ〳〵してゐるうちに、ロシア側にズン〳〵有利な態度をしめられる樣になつて結局、一番割のわるい協定をしなければならないようになるだらう。

×

今のところ支那は、排日とともに排露的傾向をもつてゐるからいゝようなものゝ、東支問題が支那側に有利に解決され、蒙古もまたロシアの思ひどほりにならず、支那の勝となれば、支那は英伊にならつて、ロシアを承認するかもしれない。

支露の接近は、滿洲における日本勢力の自然消滅を意味するものではないか。

×

移民案に對する、米國大統領及び國務卿ヒューズの意見と態度はなか〳〵公正である、さすがにワシントンの國たるに恥ぢないものがある。

本來米國は、自由と正義の國であるべき筈だ、われ〳〵は、この、世界における一番若い國に對して多くの期待をもつてゐる。

米國がもし眞に正義を知れば、世界が幸福な生活に入るべき時はよほどはやめられるわけだ。（二月二十六日）

×

久しく日本に亡命してゐた王揖唐は、來朝中の黎元洪や徐樹錚と意見が一致したので、張作霖と握手して直隷派を討伐すべく、滿洲へ出かけたらしいが、さてどんな芝居をするか。

支那の芝居に幕がないように、支那の政局もいつ幕になるといふこともなく、おまけに支那の芝居が頗るの鳴物入りであるごとく、政局もまた大鳴物入りで、おまけに千兩役者がザラにあるから、ドンチャンドンチャン花々しい事だ。

永日を期して、西瓜の種でもかぢりながらゆるりと見物しよう。

×

セミョノフがひそかに入京して再起をはかるといふ事だ、再起をはかるのはまづいとして、レニンなき後のロシアの歩調がみだれるのは火を睹るよりあきらかだといふ觀察は、果して當を得たものであらうかどうか。

ルイコフもカリニンも、人物としてはレニンより小さいかも知れぬ、しかし勞露の

諸機關は、今は一レニンよりも、却つて事實上の力を有するようになつてゐるかもしない。

惜しいことにはセミョノフには、意氣はあつても經綸がない、經綸のない意氣は、よくいつても、「人生意氣に感ず、功名誰れか論ぜん」でおしまいにならないとも限らない。

×

「興國の大詔」聖旨普及の大行列が、田中巴之助先生引率のもとに、宮城參拜の途中各新聞社を訪問した。

大詔聖旨の普及は、目下の日本にあつて喫緊の大事である、二三の新聞が、この記事を載せることを忘れなかつたのは至極もつともなことである。

たゞ、この運動の趣意を、もう少し懇切に紹介されたらすこぶるよかつたらうとおもふ、すなはち僅々六行位、十行位、十三四行位では、遺憾ながら讀者に對してこの運動の旨意を知らしむるに困難なのである。

もつとも社會は、かういふことに比較的冷淡であるかもしれない、三人の小供のハワイ密航に百行を費すことを歡迎し、モデル女の記事に八九十行を費すことが適當な

ことなのであらう、さもなければ火保の歴訪、護憲示威、下つて野球、この頃では蹴球、女の徒歩競爭、日暮里の女房殺捕はるなど、

すべてを興味、といつてもほんの座興位の程度、あるひは野次的めづらしがりな程度の社會相だけしか問題にしないのである。

いふまでもなく、かういふ社會はわざはひなる社會なのである。

×

滿洲で、關東州内の支那人裁判權を回收する運動が起つてゐたところが、それが實は王永江の病臥中に起つた手違ひとかで、おまけに張交渉使が、當時あだかも舊正月の休みで、事情不案内のものばかりの爲に、何も考へずに日本側に照會したところから、こんがらかつたものだといふことだ。

なんどもいふことだが、そうして、いつまでいつてもいひつくせないことだが、こゝが支那のおもしろ味だ、狐を馬にのッけたような話といふことは、支那に適用した場合、これが千古の格言になるのだ。

×

アンナ・パヴロワがアメリカで日本舞踊をしたといふ事だが、詳報によると、その

幕にだけはパヴロワは出なかつたそうだ、りかうなことだ、そうして藝術的良心のゆたかさに感ずる。（二月二十七日）

×

省線電車が大衝突をやつた、原因は、信號の故障だとかいふことである。

信號、あひづ、それで汽車電車の交通が圓滑にゆくのであらう。

そうしてみれば、信號といふことは、交通上非常に重大なことである。

その重大な事が一番閑却されてゐた、故障もおこらざるをえない。

見わたせば、世上のことは、一番大切なことが、一番閑却されてゐるのである。混亂せざるをえない。

×

婦人の月經は不淨だといふが、その血液は科學上けつして不淨でない、だから、その期間の婦人のからだが、けがれてゐるといふのはあやまりだ、これ日本人のあやまれる考へと因習だ、といつた醫學士どのがある。學問さへしなければ、結構一人前にとほる人間も、學問をしたおかげで、みんなこんな風にヘンテコになる。

月經をけがれといふのは、血液がきたないといふわけではないのだ、その期間を慎

ませるために不淨だといふのだ、つまり、精神的に變調をおこしやすい時だから、そこでけがれといつて謹慎させるのだ。この醫學士の血も、けがれてはゐないようだがすこしめぐりがわるい。

×

ある英人の見解によれば、世界はいまや禁酒にむかつてあゆみつゝあるそうだ、救世軍の諸子よろこんで可なり。

×

支那鐵道の警備問題について、英國の首相マクドナルドは、支那の自覺的誓約に信頼するといつて、すましてゐるようだが。

よろづこんな調子でやるとすると、折角うりだした勞働首相も、外交問題ではかなり鼻をつくことになるだらうとおもふ。

支那の自覺なぞに信頼してゐた日には、長江筋における英國の威力も次第々々に消滅といふことになるのだ。

×

ギリシヤの王は、もう本國にかへれないといふことだ、まことにお氣の毒なことだが、しかしそれは仕方のないことかも知れない。

恐らく、今のギリシヤ王朝が、どうしてもギリシヤに君臨しなければならないといふ理由はないだらうから。

それをおもふと共に、今の、あやまれる多くの日本人は考へなければなるまい。

日本の　天皇は、どうしても日本に君臨しなければならない　天皇であらせられるといふことを。

×

大石入道が憤慨する、

「この頃の日本の現狀はどうじや、見ること　聞くこと痛憤の種……第一に外交を見ろ……經濟上からみても……國防上からみると……就中國民精神の衰頽ときては」

とある。

入道の憤慨はもつともだ、だがその應急策として、鞏固なる內閣の出現、それは對外的に國際關係を一新し、對內的には、行政、財政、稅制の整理を斷行する底の、手腕と力量と勇氣を有する人物、といふに至つては、御趣旨は御尤もだが、そんな人物が、今の日本にあるかないか、それが分らないようなら、入道すこしく迂濶なるをま

ぬがれまい。（二月二十九日）

×

わが帝國最近の外交振り、健在が疑はしいとの事である、何も最近とことはるには及ばぬ、いつの外交だつて、日本の外交に、これが外交だといつて健在を誇るはさておき、證據だてた外交さへないではないか、

大たい外交といふものがあるとさへ思はれないではないか。

×

ウラヂオで日本の軍人が拘留された、必要があれば、ロシアはなんでもする、頗る野蠻なことの様であるが、事務としては實は非常に要領をえたことなのだ。

日本の政治家は、イヤに政畧家ブルか、いやに事務家ブルかのどつちかで、しかも政畧に膽がなく、その事務に處理がない、

處理とおもつてゐるのは實は判コで、たゞ捺すばかり、どこまでも腰辨式だ。

腰辨式外交、つまり上役に、つまりつよそうな人に、おぢぎをする外交だ。

×

犬養木堂の談によると、實業同志會は、いくら大騒ぎをしてもしらうとの事だから

十五人位の議員しかだせまいといふことだ。

政治にしらうともくらうともあるものか、もしありとすれば、それは政治に、ではなくつて、所謂政黨といふものゝ、所謂黨畧、所謂利害關係についてゞある。

木堂でさへそんなことをいつてゐるのだ、大たい政治といふものがわかつてない、ただ現在の政界といふものを其まゝみとめて、それが政治だとおもつてゐる、

あはれな話だ。

×

立憲養正會總理の立候補について、第一候補地の外に第二候補地をおいたのを、ある新聞が、

幹部の協議でも選擧區のきまらぬ高橋政友總裁でもやりそうなことだつた

といつたのが冷笑の意味だとすると、それは氣の毒な考へ違ひだ、全國にある立憲養正會の同志の有せる一票を、ほんとうに尊いものにするために、かういふ指定をしたのだ。

高橋總裁などがやつたら、それは非常に滑稽なことで、立憲養正會としてやる時、非常に意義のあることになるのだ。

與へられた選擧權といふものが、完全に使用されるこれが最初だ、全國を第二候補地とすることにおいてその意義が徹底する。

×

今から一月ほどにもならうか、もうよほど前の事だ、名古屋から駈落して來て、男は二十二、女は三十八でこれは人妻、一緒に毒をのんで別々の家で死んだといふ、近松の世話物にありそうな事件、

都下の各新聞がデコ〳〵な記事で、何たら大問題でもあるかの如く報道して、そうして人の噂も七十五日、とまではまだ日數を經過してはゐないが、

二月二十八日の中外商業をみると、男も同名女も同名、男も同年女も同年、場所も同じ、時間も同じ、たゞ月日だけが、正確に二月二十七日とあらためられた同一事件の報道に接した

サア分らぬ、一度死んだ人間が、生きかへつてまた同じ方法で死んだものであらうか、それとも、實は死ねなかつたので、また死んだものであらうか、これは、當事者かその關係者のほか我々第三者にはどうしてもわからぬヘンテコな事件だ。

たゞ我々がからくも解決をえんとする點は、これは新聞の間違ひではなからうかといふことである、

そうして、もしそうとすれば、新聞といふものは、馬鹿々々しい間違ひを、よくも平氣でやるものだといふことになるのである。（三月一日）

×

朝鮮における國境警備問題、これは餘程重大な問題だとおもふ、これについて、朝鮮總督府からは朝鮮全體の警備として、今の二箇師團を五箇師團にしたいといふ希望を政府に提出してあるそうだが、三箇師團を增設することは到底困難だらうし、一箇師團を內地から移すとするも、費用の點ですこぶる難色ありといふことである。

費用のために國境警備を十分にすることができないといふことは、國家としても政府としても、國民としても、よほど考へなければならないことだ。

今日、世界における國境といふ問題について、日本と支那との國境のようなヘンテコに不安な國境といふものは、恐らくほかにはあるまいとおもふ。

不逞鮮人の出沒、それに對する支那官憲の不得要領、支那馬賊の跳梁、すこしも國境といふ緊肅な感じをもたずに、たゞ安東通過に際して支那稅關の檢査をうけて、はじめて國境といふ意識があたまにのぼる程度の微薄なる國境觀念が、それにまつはる

不安のために、たゞ徒に手數のかゝるばかりで、勞して効なき狀態となるのは、つまり朝鮮における警備の不十分に原因してゐる。

五箇師團はもとより、十箇師團をおいてもいゝとおもうくらゐである。

×

奉天の王永江は、東三省有數の人物、といふよりはむしろ第一の人才?として、なか〳〵の切れ手であるだけに、いろ〳〵なモクロミをたへずやる。

裁判權撤廢で失敗したばかりのところへ、こんどは奉吉線敷設計畫ときた、滿鐵との競爭線になるといふので、また問題だ。

とかく才子は事件をおこす、尤もこれは單に王永江のみの考案ではない、奉直戰後における張作霖悶々の結果に外ならぬ。

吳はすゝんで張をせめることはできないが、なんといつても、今中央部での吳は花形だ、支那大陸に光彩を放つてゐるに引きかへて、張の勢範は滿州の一隅だ、悶へざるをえない。

×

英國の勞働黨內閣は、數回の失言問題でだいぶ手をやいてゐるようだ。

つねに政治の全般にわたらず、ある二三の社會改造意見のみを主張として、たま〳〵政局を左右する位置にたつてみたところが、世界といふものは複雜の當體であるいきほひ鼻をつかざるをえないことになるのだ。

そうして、單純な意見を次第に複雜に色づけていつて、こゝに必然的に妥協をこゝろみることになる、レーニンもそうだ、ウキルソンもそうだ、今、マクドナルドもまた其轍をふまんとしてゐるのである。

×

鐵道省の囑托約一千人、それに要する費用約八十万圓、かつては東京府市の囑托のしかも無用な囑托のおほいのに驚いた、いままた鐵道省囑托の事をきいて驚きを新にする。

官公署といふものは、どこでも、おそろしいムダづかひを平氣でしてゐるところと見へる。

×

ドイツ人は、亀屋などへいつて食料品をかうのにも、フランスのものはけつしてかはないそうだ。(三月二日)

×

朝鮮總督府では大震災の際に於ける所謂鮮人問題なるものについて、その誤解をとくために、英文のパンフレットをつくるそうである。

それには、日本政府のとつた當時の善後策や、災害を被つた不幸な鮮人についての調査を正直に披瀝するといふことだが、そうしてそれを外人觀光團にくばつたりなんかするそうだが、

總督府としての辯明の態度そのものは、非常に注意を要することである、徒らに鮮人を庇護してはならぬ、いはゆるいひわけであつてはならぬ、眞相をつたへることを忘れてはならぬ。

×

貿易何々時報などと尤もらしい名なので、ちよいとひろげてみると、

田中智學大先生も日本橋から立候補とか、第一に合掌するんだネ、南無妙法蓮……

とある、國を憂ふる至誠と信仰とは、いはゆる現代人には、あまりにかけはなれた問題である。

×

アメリカのある大學で、新築の圖書館をかざる爲に、世界文化史上の偉人の像をほらせることにした。

その中に、一人の支那人なく、一人の日本人なく、一人の印度人をみない。

モーゼを數へ、プラトーをかぞへ、ホーマーを數へ、ダンテを數へ、ゲーテを數へても、支那日本に雲の如く澤山ある文化史上の大偉人を一人も數へてゐない。

西洋人の無智なこと驚くばかりである。

×

日本の對支文化事業が廣東に沒交渉だといふので、廣東人がおこりだした。

機會あれば怒る、さすがに廣東は、排日の淵叢たるに恥ぢない。

×

一時、非常な人氣であつたフランスの總理ポアンカレも、周圍の事情に餘儀なくされて、政策の効果ソロ〳〵うすらぎ、佛國にとつては後悔の日が近からうといふことである。

ポアンカレの對英政策は、なんといつても少しやりすぎたかたちである、このやりすぎたといふことが、將來のフランスに對して二重の恐れとなりはしないか。